

第29号
2017.2

あきた 留学生交流



「第三の故郷を見つける農家民泊2016」に参加した留学生、日本人学生、受入農家のみなさん

秋田地域留学生等交流推進会議
Akita Inter-regional Council for Promotion of Foreign Student Exchange

C O N T E N T S

1 巻頭言

秋田工業高等専門学校 校長 米本 年邦

構成員大学からの寄稿

2 平和の種蒔きとしての留学

ノースアジア大学 国際センター
三浦 薫

留学生からのメッセージ

3 留学のきっかけ

ノースアジア大学法学部観光学科
謝 胎汝 (台湾)

4 秋田に来て、よかった！

秋田県立大学
システム科学技術研究科電子情報システム学専攻2年
劉 貝易 (中国)

5 秋田での素晴らしい留学生生活

国際教養大学短期留学生
雷 穎然 (香港)

6 秋田での袖すり合うも他生の縁を胸に

秋田工業高等専門学校物質工学科5年
フィル アレキサンデル ロゼン (インドネシア)

7 10ヶ月という宝物

秋田大学教育文化学部特別聴講学生
鄭 鉉憲 (韓国)

8 留学体験寄稿～秋田から世界へ～

互いを尊重しあうこと

秋田大学教育文化学部3年
村岡 光 (日本)

9 卒業予定者からのメッセージ

初心を持って、前へ進もう

秋田県立大学
システム科学技術研究科経営システム工学専攻2年
劉 子敬 (中国)

10 留学生交流事業

第三の故郷を見つける農家民泊2016

国際交流団体等の活動紹介

11 留学生との草の根国際交流活動 (公財)秋田県国際交流協会 (AIA)

12 Think globally, act locally ～草の根国際交流31年「わびえ修了」～ 秋田県国際交流をすすめる女性の会：わびえ

13 平和の心を広げる 秋田ユネスコ協会

14 毎年留学生や技術研修員等との 様々な交流事業を実施

秋田県日中友好協会・県日中女性委員会・各地区日中友好協会

15 県内在住の留学生らと交流、支援 秋田モンゴル友好協会

16 秋田での縁を大切に 国際交流オープンクラス

17 留学生交流事業の紹介

秋田工業高等専門学校、秋田県立大学、ノースアジア大学、
国際教養大学、秋田大学

19 平成28年度国際交流事業の実施状況

24 留学生関係資料

秋田県内留学生等の受入れの推移 (各年10月1日現在)
住居形態別留学生数 (平成28年10月1日現在)
秋田県内留学生等の出身国・地域別在籍状況
(平成28年10月1日現在)

26 平成28年度秋田地域留学生等交流推進会議

秋田地域留学生等交流推進会議議事要旨
秋田地域留学生等交流推進会議要項
秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ
秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿
秋田地域留学生等交流推進会議運営による資金貸与制度

裏表紙

推進会議へのご意見や情報提供について

巻頭言



秋田工業高等専門学校

校長 米本年邦

今を遡る33年前（1984年）、東北大学に助手（現在の職制では助教）として勤務していた私に対して、米国テキサス州ヒューストンのRice大学から「ポスドク（博士研究員）で採用したい」、とのオファーが届きました。

今であれば、大学院博士課程の学生でも、国際会議参加の海外渡航が普通に行われていますが、当時はそれが一般化していない時代であり、私自身はそれまで一度も海外渡航の経験がありませんでした。早速、研究室の上司教授の了解を得て、東北大学での職を維持したまま、長期出張の扱いで1985年9月に渡米しました。なお英語力ですが、大学人として、文章理解や文章作成には不都合はなかったのですが、会話力はさっぱりでしたので、渡米に先立って英会話学校に週3回、半年ほど通いました。しかしながらそれは付け焼き刃、アメリカ到着からしばらくの間、コミュニケーションには苦労しました。研究室では互いにFirst nameで呼び合いますが、私は"Toshi"と呼んでもらいました。アメリカ南部のスラング(?)である"How is it gone, Toshi?"は「トシ、どうだうまくやっているか?」という意味ですが、研究室のBoss (Prof. Riki Kobayashi、日系2世ですが日本語はほとんど解さない) から、研究の進捗状況をこの言葉で尋ねられたのはアメリカ滞在半年が過ぎた頃です。

ポスドクは即戦力としてProfessorの研究費で雇われているので、成果が出ないとBossの機嫌もよくありません。そのため、成果を出さねばならない、という緊張感は常に持っていました。それなりに充実した研究室生活を送りましたが、思うような実験結果が出ていないときにはBossから、「I let you go back to Japan」とも云われましたが、逆に満足の行く結果を出しているとBossも上機嫌で、「How is it gone, Toshi?」と

きます。こんな時に、「Can I take a vacation?」とやりますと、「Sure」と返事が返ってきました。春のイースターのころには9日間の、そして米国滞在1年が近づいた1986年の8月後半には、17日間の長い休暇をもらって、それぞれアリゾナのグランドキャニオンと、ワシントンDCからナイアガラの滝まで、家族でドライブ旅行を楽しみ、1年4ヶ月の米国滞在を終えて日本に帰国致しました。

渡米当初、自動車保険購入（加入ではない）や、大学から給料をもらうために必要となる社会保証番号（Social Security Number）取得に際して、日本で考えれば理不尽な扱いを受けましたが、これらについて研究室の同じアジア人留学生に愚痴を漏らしたところ、「緩い規則と個人の裁量判断に任されることが多いのがアメリカである。大学外の一般のアメリカ人から見れば、留学生だろうが、トシの様な招聘研究者だろうが、密入国を含めてアメリカ移住を目指す外国人と同じに見ているはず。そうした扱いが嫌なら日本に戻ればいいだけのこと。」といったニュアンスの言葉が返ってきました。要するに、郷に入っては郷に従え（When in Rome, do as the Romans do.）ですね。私にとってはまさに理解すべき異文化体験の一つでした。

留学から日本に戻って30年が経過致しました。2年前までの東北大学在職中は、アメリカ、ヨーロッパ、アジア各国からの大学院留学生及び学部交換留学生の受け入れを沢山行ってまいりました。彼らには、研究指導はもちろんですが、私のアメリカ留学での気づきである異文化理解のアドバイスも行ったつもりです。

留学生として秋田の地で学ぶ皆さんには、日本と母国の違いを理解した上で日本を好きになっていただき、立派な成果を上げて帰国されんことを期待します。

平和の種蒔きとしての留学

(ノースアジア大学国際センター 三浦 薫)

本学では、海外6大学と学術交友協定を結んでおり、中でも韓国の慶熙大学校、培材大学校、台湾の真理大学とは、交換留学生として毎年留学生を受け入れ、送りだしている。平成20年から現在までの受け入れ留学生数は27名、本学からの派遣生数は24名。留学生は本学の講義を受講すると共に、留学生別科で日本語、および日本文化の講義を履修し、言語だけでなく日本について深く学んでいる。また「まつり実践実習」の講義では、祭りの練習に日本人学生と共に汗を流し、8月の竿灯祭りには観客としてではなく参加者として秋田の祭りを体験し、2月には冬祭りを見学することで、一年を通して日本の文化、風習を肌で感じている。

最近の留学生は、来日前に日本語をよく勉強してきており、来秋時には既に十分な意思疎通能力があり留学中に日本語能力試験1級を取得する学生がいることも、本学派遣生の大きな刺激になっている。また帰国生が、帰国後はピアとして、お世話になった留学先からの学生をサポートし、さらに本学からの留学予定生の指導にあたることも「恩返し」ならぬ「恩渡し」として交換留学ならではの副産物だ。

留学は、ともすれば「留学先でのその期間の個人的な体験」と周りも本人も捉えがちであり、

留学前後の価値が軽視される。留学の本来の価値は、留学前の様々な準備から始まり、また留学後にその留学をどう生かしていくかで決まる。基本的な語学力の習得は言うまでもなく、それ以上にその国の歴史、文化などを深く学んでから留学することが、留学そのものの質を決める。また帰国後に、単なる会話力ではなく、留学で身に付けた「人間力」を将来に自信を持って活かしていく使命を負っていることを自覚して欲しい。

留学は種まきの時間である。蒔かれた種にどれだけ大切に水や栄養を与え、その後の人生で大きな花を咲かせるかが重要である。世界中から注目を浴びつつある「クールジャパン」「TOKYO」の時代において、なぜ東北の小都市の本学を留学先を選んだのか、こっそり留学生に尋ねたところ、「日本語と日本文化を丁寧にしっかりと本学で学んだことが、帰国後の就職活動に大いに役立ち、実は多くの先輩が現在東京や大都市の一流企業で仕事をしているから」とのことであった。まさに本学への留学生が、数は決して多くはないものの、留学の花を大きく咲かせてくれている。留学先の国は、第二の祖国になると言われている。この小さな種一粒一粒が、将来国際平和の花に成長していくことを願うものである。



竿灯祭りでの太鼓の演技



大学祭の歌唱コンテストに出場



留学のきっかけ

ノースアジア大学 法学部 観光学科
シャイジョ
謝 貽汝 (台湾)

こんにちは、私は台湾出身の謝貽汝（シャイジョ）と申します。交換留学でノースアジア大学法学部観光学科で勉強をしています。私が留学したいと思ったきっかけは、ある日、台湾の駅で日本人に道を訪ねられた時、緊張しすぎたせいか授業で習った日本語をうまく話せませんでした。そのときの悔しさから、よりいっそう日本語や日本文化を学びたいと思い、交換留学を決意しました。

秋田のイメージと言えば教科書で見た東北三大祭の竿灯まつりでしたが、教科書に書かれていた秋田はあまりにも淡く平凡すぎて、全く興味を持ってませんでした。しかし、先輩がビデオで撮影した秋田を見てみると、頭の中にあった秋田は色鮮やかなものになってゆき「もっと知りたい」という気持ちが湧いてきました。

台湾は亜熱帯と熱帯に属していて、雪は珍しく、あまり見ることはできません。川端康成の「長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。」という描写に魅了され、雪国の景色に憧れを抱いていたことも、秋田を選んだ理由の一つです。

日本に着いた時はまだ秋でした。秋の千秋公園は本当に綺麗で、赤と黄色に染められた葉っぱは言葉では表現できない繊細な色をしていました。また角館に行き、武家屋敷の中に陳列した文物、昔の人々が重ねてきた歴史や文化にも触れることができました。

秋が去ると冬が訪れ、歩道は金色のイチョウ

の落葉に覆われました。

そして初雪を迎えました。

台湾とは違い、冷たく透明な空気を通し、遠くの方まで見ることができます。積もった雪で白くなった町を見ると、秋田は本当に自然に恵まれているのだと感じました。

秋田に来てもうすぐ五ヶ月になります。自然に浸る一方、勉強も大事にしなければなりません。日本語の先生も周りの学生もみんな優しくしてくれて、観光学科の授業も沢山勉強しました。大学で学んだ事が日本での生活をより豊かにしてくれています。

2017年を迎え、新しい年が始まりました。これからも色々な所を訪れ、秋田の竿灯祭りや日本の年中行事も楽しみたいです。日本にいる間に私の日本語能力はきっと一歩ずつ前進するでしょう。





秋田に来て、よかった！

秋田県立大学
システム科学技術研究科 電子情報システム学専攻2年
リュウ バイエキ
劉 貝易 (中国)

光陰矢のごとし。

日本の伝統文化への興味がきっかけで、日本への留学を決めた時から、あっという間に4年が過ぎました。

振り返ってみると、日本語があまりできない不安を抱えていた私を、日本の方々は優しく迎え入れてくれました。広島県のユースホステルでの出会い、台湾に就職を希望する四国の少年、十数年ずっと九州から京都の旦那さんのお墓参りをするおばあさん、中国語を一生懸命に勉強して、中国にキリスト教を説教したいお菓子屋さんなど、多くの人たちが自分を励まし支えてくれました。

周囲の支えもあり、一年半の後、日本語能力試験1級を取り、晴れて秋田県立大学に入学しました。

来る前の秋田のイメージは「雪」と「秋田犬」しかありませんでした。中国東南部の暖かい小都市「蘇州市」で生まれた私にとって、雪は珍しく新鮮で、秋田の雪景色をととても楽しみにしていました。また、犬が大好きな私にとって、本物の秋田犬に触れることは、とてもワクワクしたものでした。

しかし、現実是非情です。秋田に来た9月の紅葉の時期とは打って変わって、翌年の12月中旬の由利本荘市は暴風雪に襲われました。自転車は使えず、通学路は歩けないほど雪に覆われました。

春になり、雪が消えて、やっと秋田犬と会うことができました。しかし、子馬のように大きいサイズを想像していた私にとって、想像とは全然違うことに戸惑いを感じました。それを察してか、犬も私を怖がって近づきませんでした。

厳しい生活環境がある反面、ここで暮らしている人々は優しく私に接してくれま



した。

先生方は授業と研究だけでなく、生活上の悩みも相談に乗ってくれました。また、日本人の友達からは、日本のルールやマナーも教わりました。日本と中国の文化を互いに語り合うことで、両国の文化が異枝同根であることを理解できました。

秋田の冬にも慣れ、地元の美しさにも徐々に気づき始めました。本荘公園に建立された満州開拓の碑を見た時の嘆き、雪の中で玉川温泉を楽しんだ時の笑顔、地酒を飲みながら象潟の夕暮れを見た時の感動、羽後亀田で行われた上田真田陣太鼓を觀賞した時の興奮、大館駅前ではち公の物語を聞いた時の涙、温かいきりたんぼ鍋や冷たい生牡蠣、どれも大切な思い出です。

まもなく、修士課程が終わります。秋田県で過ごしたこの2年、色々なことを経験しましたが、やりたいことがまだまだ沢山あります。霊山鳥海山を登ったこともないし、白神山地に入ったこともありません。侍文化が好きですが、角館武家屋敷も行ったことがありません。また故郷蘇州の美人——西施を名乗る象潟の西施祭りにも参加したいです。

幸い、博士の入試を合格し、4月から秋田の生活が続きます。

人生は短いものです。貴重な時期に秋田と出会ったのは、何よりも幸せなことです。ここには「風花雪月」もあり、「五穀豊穰」もあります。風光明媚な自然の景色にも恵まれ、収穫の喜びもあります。そして、何よりもみんなが生き生きと暮らしています。

秋田に来て、みんなと一緒に頑張られて、本当に良かったです。

将来はどうか？私は昔と同じく期待しています！





秋田での 素晴らしい留学生活

国際教養大学 短期留学生
ルイ ウィンイン
雷 穎然 (香港)

もっと日本文化について理解を深めたい、特に都会にある私の出身地香港では体験できない田舎暮らしについて学びたい、という想いから、私は秋田にある国際教養大学を留学先として選びました。

留学当初は、便利な香港とは違う秋田の新生活に慣れることができませんでした。大学の周りにはコンビニすらないのです!しかし、私は少しずつそんな新しい環境に溶け込んでいきました。

香港では毎日があっという間に過ぎます。でも、秋田ではゆっくりとした時間を過ごすことができ、香港よりずっとストレスの少ない生活ができました。

私は秋田の新鮮な空気や気持ちの良い環境を満喫し、星空にも魅了されながら過ごしました。国際教養大学は便利な香港とは異なる辺鄙な場所にあります。私はここでの留学生活がとても大好きでした。

留学中、私はRCOS*を通して、地域の方との交流や日本文化を体験する活動に参加しました。RCOSは留学生が地域について学び、地域の様々な方と交流する活動を企画してくれました。

例えば、農家の方と交流できる農家民泊に参加しました。そこでは、きりたんぼと味噌たんぼ

など秋田の郷土料理を農家の方と一緒に作りました。農家の方は親切で、私たちにとても熱心に農業について教えてくれました。食事の時間では、お互いについても話をしました。農家民泊は、地域の方と交流できるとても良い機会でした。そして私にとって、留学生活の忘れられない思い出となりました。

農家民泊の他には、地域の学校とも交流しました。例えば小学生と一緒に遊んだり、英語を教えたりする活動に参加しました。また、支援学校の子どもたちと交流し遊んだこともとても有意義な経験として心に残っています。

鹿角郡小坂町のモニターツアーでは、モニターツアーの企画・運営について理解を深め、自分にとって必要な知識を得ることができました。

秋田で過ごした日々は私の将来の学業にとっても役立つ経験です。そして、秋田での学びが、私の紀行作家になりたいという夢を叶える後押しをしてくれると思っています。紀行作家になるために、これからももっと色々な場所に行き、その地域の方と交流し経験を積みたいと思います。

*RCOSは国際教養大学で学生と地域との交流活動を担当している部署の名称。Research and Community Outreach Servicesの略。





秋田での袖すり合うも 他生の縁を胸に

秋田工業高等専門学校
物質工学科5年

フィル アレキサンデル ロゼン
(インドネシア)

こんにちは。フィルアレキサンデルロゼンと申します。私はインドネシアの第二都市、スラバヤ生まれです。日本のことも、日本語も何もわからない状態から来日し、東京で一年間、日本語を勉強し、2014年に秋田工業高等専門学校物質工学科3年に編入学することになりました。

秋田高専での私の卒論研究テーマは、温度感受性ポリマーです。温度感受性ポリマーは、温度によって機能が変化するポリマーのことです。日本では、株式会社「セルシード」や東京女子医科大学の先生による「細胞シート技術による再生医療」という研究があります。失われた、或いは機能が低下した臓器や損傷の再生医療が、医学だけでなく、工学の広範囲な技術で融合され実現されています。現在、私は研究内容を通し、工学的に医学に貢献を目指しています。

秋田高専では学生寮に住み、勉強ばかりでなく、日本人、東南アジアからの留学生をはじめ、フランスやフィンランドの留学生たちとも交流し、異国文化を体験できました。インドネシア以外の文化や異国の人たちの考え方を知るようになりました。

例えば、時間を大事にする日本人、自立心の高いフィンランド人の留学生、また、言葉がダイレクトなフランス人がとても印象に残っています。インドネシアであまり接することができない外国語での会話、日本語での会話や英会話、

フランス語なども学ぶことができ、とてもいい経験になりました。これからも、日本で老若男女と袖をすり合わせ、多くの人と出逢いを大切に、言語力だけでなく人とのネットワークをつくり有意義な日々を送りたいと思います。

3年間は、あっという間の時間で私の人生が変わりました。日本で出逢った先生方・先輩方・高専生の仲間、そして、学校外でお世話になったホストファミリー・近所の方々のおかげで、日本での貴重な思い出がたくさんつくられ、留学生活を楽しむことができました。秋田で私は大きく成長し、私にとって、秋田は忘れられない第二の故郷になりました。大学進学で東京へ行きますが、また秋田へ遊びに来たいと強く思っています。

最後に、改めて秋田の皆様に関心より感謝申し上げます。ありがとうございました。





10ヶ月という宝物

秋田大学 教育文化学部 特別聴講学生
 ジョン ヒョンヒ
 鄭 鉉熹 (韓国)

まるで夢のようだった10ヶ月がもう終わりに向かっています。最近、めっきり日本での過ぎし日々を思い出す時間が増えました。専攻が日本語教育にもかかわらず日本語の実力が足りなかった私は、日本で暮らしながら直接日本語を学びたいと思い留学を決めました。協定校の大学は5つありましたが、私は少しも悩まずに秋田大学を選びました。なぜなら先輩たちから“外国人とたくさん付き合いたかったら、また日本語だけではなく英語を使う機会がほしかったら秋田がおすすめだよ!”と前からよく聞いたからです。私は日本語教育と英語教育を両方専攻しているのでどちらも勉強しなければならない上に、もともと人と付き合うことが好きでした。秋田大学は私にとってこの上なくいい条件で、結局、私はここに来てその望みを全部達成することができました。

私の楽しかった留学生活を紹介すると、まず、秋田大学の国際課の色々なイベントがあります。東成瀬村の英語キャンプ、田沢湖お祭り体験、書道大会など今まであったイベントにだいたい全部参加しましたが、一番私の記憶に残るのは農家民泊での農業体験でした。単なる農作業だけではなく、料理やお話しをしながら、お互いに親くなりました。

次は、サークル活動です。韓国にいる時、ギターと歌のサークルに所属していました。それで日本でも音楽を続けたいと思って、ixiというアカペラサークルに入りました。最初は、日本語に自信もなく、留学生のことをどう思っているか、とても心配で入るのを何度も悩みました。でも勇気を出した結果、ixiの一員になって友達と美しいハーモニーを作れました。

最後に、AIAという国際交流協会のプログラムに



参加したことです。「あきたのファミリー」というプログラムでホストファミリーができて一緒に観光をしたり、時々お家に泊まって日本の家庭生活を経験しました。そして「日本語でお話し」というプログラムで会った日本の方と友達になれました。一緒に遊び回りながらたくさんの思い出を作りました。

これ以外にも北海道、東京、大阪など日本旅行をしたり、通訳と韓国語を教えるバイトをしながら有益な時間を過ごしました。何より一番嬉しかったことは多様な国の友達に会えたことです。歴史や地理にまったく興味がありませんでしたが、いつの間にかグローバルニュースや世界地図を調べている自分がいました。外国人の友達のおかげで深い友情だけではなく、世界を見る視野を広げることができました。この10ヶ月は一言で表しきれないほど素晴らしい一日一日の連続でした。私をこんなにも成長させてくれた日本留学は私の人生にとって一番大切な思い出になると確信しています。





互いを尊重しあうこと

秋田大学
教育文化学部3年

村岡 光 (日本)

私は大学の提携校であるイスラエルのハイファ大学へ留学しました。自身クリスチャンであり、より深く聖書を理解するためにも、キリスト教発祥の地に住み、実際に肌で体験してみたかったというのが留学した大きな理由です。留学中は様々な文化を持った人々と交流する機会が多くありました。ハイファ大学ではユダヤ人、アラブ人、ドゥルーズ人や世界中からの留学生と一緒に学んでいます。大学では、そのような学生たちと共にヘブライ語をはじめ、イスラエルの歴史や文学を学びました。ヘブライ語は月曜から木曜まで毎朝、大学に付属しているウルパン（ヘブライ語の学校）で授業を受けました。学生は一クラスに約10～13人の少人数制で、留学生だけでなく、帰還者であるユダヤ人やヘブライ語のスキルアップが必要なアラブ人の学生も授業に参加していました。ですから教室は非常に国際色豊かで、様々な背景をもつクラスメートとの交流はとても刺激的で楽しかったです。イスラエルでは素敵な友人たちに出会うこともできました。それぞれがユダヤ教徒、イスラム教徒、キリスト教徒など異なる信仰を持っている友人たちですが、お互いを尊重しあい、共に学び、談笑し、食事を共にしたことは忘れられません。

現代社会では国際化が進み、世界各地の文化の接触や交流が活発になっています。一方で、文化の違いを原因とする差別・紛争・社会問題が後を絶ちません。しかし、私がこの留学で出会った人々との交流から学んだことは、相手に対して一人の人間として向き合い、理解しようとする一つの決意から、異文化への理解、尊重、そして共存が生まれるということです。これは日本人同士、文化や言語は同じものを共有していますが、それぞれが異なるバックグラウンドをもっている関係の中にも当てはまることではないでしょうか。この留学で得た貴重な経験、様々な文化を持った人々との出会いやそこから学んだことを、残りの日本の大学での学び、そして私の人生に大きく活かしていけたらと思います。



イスラエルの友人たちと



エリコの町にて



エルサレムの嘆きの壁



初心を持って、前へ進もう

秋田県立大学
システム科学技術研究科経営システム工学専攻2年

リュウ シキン
劉 子敬 (中国)

時間は誰かを待たずに、ただ静かに、静かに、遠くへ。

あっという間の2年6か月。学校生活も間もなく幕を閉じ、この3月で秋田県立大学を卒業します。感動・感激、色んな想いが胸の奥で繰り返し響いてきます。

10年ほど前、私がまだ中学校に通っていた頃、母は研究員として秋田県立大学に来ました。私自身幼くもあり、海外というものをまだそれ程理解しているわけではありませんでしたが、母とのインターネットチャットでのやり取りを通じて、日本社会の素晴らしさ、秋田の冬の凄さを教わり、次第に日本という国を意識しはじめました。今思えば、私が日本に対して親近感を持ちはじめたのはその時でした。

やがて、母は帰国、私も中国で他の学生と同じく進学し、大学生となりました。他の学生と唯一違ったのは、自力で日本語を勉強し、日本語能力試験1級を取ったこと、そしていつか日本に来て日本の生活を体験したいという願望が人一倍強かったことです。

幸運にも、私は家族の理解を得て、指導教員の嶋崎真仁先生の指導の下、不案内のため心細さを感じつつも、どこかで懐かしさを感じる秋田での留学生活をはじめました。事前に勉強していたおかげで、日本語での日常会話は不自由がなかったのですが、授業の中での専門用語や、研究に対する指導教員からのアドバイスなど、その場では理解できない事柄も一杯ありました。また、自分の考えを上手く説明できないことも何度もあり、正直、毎日が辛い出来事の連続でした。けれども、こういう状況になった時はいつも、先生は丁寧に、優しく、そして言い方を変えながら、私が理解できるまで説明してくれました。これまで指導して下さった先生方にはとても感謝しています。

もちろん、今回の留学では、授業だけではなく、生活面でも困難なことがたくさんありましたが、先生方をはじめ事務職員の方々、研究室や留学生の先輩・後輩、地元由利本荘市の方々など、多くの人たちの助けをもらいながら、最後まで楽しく学生生活を過ごすことができました。

「ゆく年くる年」「菜の花まつり」「餅つき」「初詣」など、数多くの楽しい思い出が、不案内で心細い日本滞在の心の支えとなり、毎日が充実したものとなりました。一方で、自分をさらに鍛えたい、もっと勉強したいという気持ちが膨らみ、幼い頃に日本での生活を夢んでいた自分が、いつしか日本での就職を目標として持つまでとなりました。

しかし、現実とはそれほど甘くはありませんでした。初めのころは、就職活動もうまくいかず、基礎的な学問知識や、日本語の正しい話し方など、様々なことが障壁となって失敗を繰り返し、ついには日本での就職を諦めるまでとなりました。就職活動をいったん中止し、学校に戻った自分に対し、先生や、同級生たち、友達が親身に相談に乗ってくれ、優しく助言してくれたことが契機となり、私の中の勇気が再び湧きはじまりました。自分がいま出来ることを全力でやり抜くことが大事という気持ちが芽生えはじめ、もう一度就職活動に取り組むことにしました。諦めず、頑張ったこの時の自分を、今は誇りに思っています。

「相手を理解し、助け合う、そして失敗を恐れずに強く、前に進む。」これが、私が秋田での留学生活で得た大きな財産となりました。そしてまた、日本での滞在を決心した時の私の初心でもあります。私はこの初心を大切に、より一層自分を磨き上げ、そして、社会に貢献できるよう頑張りたいと思います。



留学生交流事業

第三の故郷を見つける農家民泊2016

昨年度に引き続き「第三の故郷を見つける農家民泊」をテーマに、仙北市西木町の農家の方々と、県内高等教育機関4校からの留学生・日本人学生・教職員が共にグリーンツーリズムを通じ交流を行いました。

農業体験ツアー（10月1日、2日実施）は一泊二日で行い、1日目は協力農家7軒に分かれて農作業と農家民泊を体験しました。野菜の収穫やきりたんぼ作り、着物の着付けや収穫した野菜での料理作りなど、各農家の特色を生かした体験が行われました。日本の家に宿泊すること自体初めての学生が多く、日本独自の民家に感動を覚えています。畳に座ることや、布団に寝ることなど、各農家で体験全てが学生たちの心に響いていたようです。また、民泊を通してグループ内での交流もさらに深まり、アンケートの集計結果を見ても「とても満足した」という回答が9割以上を占めました。

農業体験ツアー2日目は、参加者全員が一堂に会し、各農家で作った料理を持ち寄りの食事会と1日目の振り返りを行いました。グループメンバーや農家のお母さん、お父さんともすっかり打ち解けた様子で、各農家で持ち寄った料理を交換し合い、日本のことや母国のことなどを楽しそうに話しながら食事をする様子が見られました。1日目の振り返りではグループごとに2～3分程度の簡単な発表を行

い、他のグループの学生や農家さんとの交流も深めました。

収穫感謝祭ツアー（11月5日実施）では、笹の葉餅作りや餅つき体験、10月のツアーで撮影した写真を使っのアルバム作成をグループごとに行いました。笹の葉餅作りでは、あんこが入った生地の色つきの生地で思い思いに飾り付けを行い、学生たちが作り出す個性的なデザインのまんじゅうに農家の方々も「おもしろい」「自宅で真似してみたい」と楽しんでいる様子でした。餅つきは初めて体験する参加者が多く「杵が重くてなかなか難しい、もっと上手になりたい」「楽しい」と感動を覚える学生が多かったです。お昼には、つきあがった餅や農家の方々の手作りの料理を食べながら、10月のツアーの思い出などを語り合いました。それぞれが感謝をこめて作成したアルバムは、お世話になった農家の方々へプレゼントされ、アルバムを受け取った農家の方々からも「毎年思い出が増えてうれしい。」と喜んでいただくことができました。

2回のツアーを通して、参加者からは「また参加したい」「またすぐにでも農家さんに会いに来たい」という声を聞くことができ、この農業体験ツアーがいかにか学生たちの思い出に残ったかが、その話しぶりから伺うことができました。



留学生との草の根国際交流活動

■ (公財)秋田県国際交流協会 (AIA)

秋田県国際交流協会(AIA)は、国際交流に関する幅広い分野の活動を促進することにより、世界各国との相互理解と友好親善を深めるとともに、地域の活力を高め、より豊かな県民生活の実現に資することを目的として設立されました。現在、秋田県における多文化共生社会の推進、民間団体等の活動の活性化、国際交流の情報や機会の提供という3つの目的を柱として、様々な事業に取り組んでいます。

平成18年度より実施しているホストファミリー事業「あきたのファミリー」では、県内で学ぶ留学生と交流するホストファミリーボランティアを募り、そうした家族との交流を希望する留学生とのマッチングを行っています。今年度は、12月末日現在で10カ国38名の留学生から申込みがあり、すべての留学生を33家族に受け入れていただきました。これまで本事業にご参加いただいたご家族、留学生から届いた感想をいくつかご紹介します。

【ホストファミリーの声】

◎交流した留学生の方々が、皆日本への愛着が強く、こちらが改めて日本について考えることがしばしばです。

◎帰国後も留学生が日本に来たときに会ったりしています。Facebookなどでつながりを維持しているので、今でも身近に感じます。様々な国の文化を感じられてとても良い活動だと思います。

◎秋田にいながら外国人と家族のような交流ができ、とても楽しく素晴らしい経験になりました。

【留学生の声】

◎ホストファミリーはとても素晴らしく、親切な方々で、自分の国で本当の家族と一緒に過ごしているみたいに感じています。

◎素敵なプログラムだと思います。もっとたくさんの時間をホストファミリーと過ごしたかったです。とても親切な方々で、彼らも楽しく感じてくれていたら良いと思います。

また、県民の国際理解を深めるとともに、在住外国人と県民が気軽に交流できる場の創出を目指し8月、11月、12月に開催した「AIA異文化交流カフェ」には通算で4カ国7名の留学生が参加してくれました。

秋田県国際交流協会は、県民と外国出身者の両方が住みやすい「多文化共生社会」を構築するため、これからも各種事業を展開してまいります。引き続き、皆様のご協力をお願いします。



異文化交流カフェ (8月)



異文化交流カフェ (11月)



異文化交流カフェ (12月)

Think globally, act locally

— 草の根国際交流31年『わびえ修了』—

秋田県国際交流をすすめる女性の会：わびえ

「国際交流をすすめる女性の会」は『国連婦人の10年』を一つの契機に県内の女性が集まって国際化時代にふさわしい開かれた地域社会づくりを願って1985年に発足しました。以来、31年間、常に地球規模で地球市民の一人を目指し学びと活動、そしてボランティア活動を展開して参りました。

その他、国際協力活動として「慶州・ナザレ園」への交流・支援、「幼い難民を考える会」への支援、海外医療活動の支援、NHK助けあい募金や国際募金活動への協力等数々の国際的な視野に立っての活動をすすめて参りました。

しかし、残念ながら高齢化と時代の流れの中で、平成28年度の総会をもって「わびえ」の組織活動を終えることとなりました。

かくして、平成28年9月17日（土）、秋田市・秋田ビューホテルに於いて『修了をお祝いする会』を開催。31年に及ぶ草の根活動に幕を下ろした事をご報告申し上げます。

皆様、本当に長い間「わびえ」発展のためにご尽力を賜りました事に深く感謝申し上げますと共に厚くお礼申し上げます。

「わびえ」の活動の柱である『わびえ奨学プラン』は将来母国と日本の架け橋になりたいと勉学に励んでいる留学生への贈呈事業である。

留学生支援の最後の事業として、活動資金として積み立ててきた『わびえ基金』の残高100万円の目録を地域への貢献事業として「秋田大学みらい創造基金」に寄贈致しました。

今後、組織活動は終わっても、それぞれの地域で外国人との交流に身近なところでその精神が受け継がれていくことを願ってやみません。

皆様との素晴らしい出会いに感謝します。

【会員の思い出】

- * 学びと活動は今後も大切な「財産」です。
- * 外国に目を開かせてくれた貴重な存在、時間でした。一つの時代が終わりました。
- * 主人も同伴のハンガリー、イタリア等のスタディツアーでの異文化交流。
- * 日本語教室での生徒との奮闘体験。
- * 和気藹藹ピースを願い笑顔溢れる国際交流。
- * 一生の沢山の友人とめぐり会い、またスタディツアーを通し、異文化交流国際理解の深まり等貴重な体験に感謝のみです。



平和の心を広げる

■ 秋田ユネスコ協会

秋田ユネスコ協会は、ユネスコ憲章の精神に賛同し、民間の立場から世界平和の推進を目的として活動する国際交流団体です。

2016年度の主な活動は次のとおりです。

- 4月11日 総会、文化講座「ユネスコ世界記憶遺産『山本作兵衛の炭鉱画』と筑豊の炭鉱史」
講師 今井忠男氏（秋田大学国際資源学部教授）
- 7月16日 東日本大震災の被災地の子どもたちの「学び」を支援する募金活動
- 8月15日 「平和の大切さを学ぶセミナー」
戦中・戦後の生活体験に関する講和と、千秋公園の時鐘での鐘つき
- 10月22日 「アフガニстанは今～現地教育関係者の報告～」
- 11月13日 「外国人による日本語スピーチ・コンテスト & 話そう、築こう、平和のためにできること」
- 1月14日 ユネスコ・世界のお料理フェスタ（料理を通して国際理解、交流を図る）
- 1月28日～29日 書き損じはがき回収キャンペーン（アフガニстанの教育支援のための活動）

近年、世界情勢はますます混沌としています。当会の中では、中東地域の度重なる紛争のニュースに、その背景やイスラム教をもっと理解する必要があるのではないかという意見が出されました。また、私たちが長年教育支援しているアフガニстанについても、治安が安定せず私たちの活動は役に立っているのだろうかという疑問が出されました。

昨年度に中東理解の第一歩として、シリアの実情を学ぶ国際理解講座を開催しました。現在のシリアの紛争の背景にある歴史、宗教、砂漠の文化などの絡み合った根深い事情について話しを伺いました。

今年度は、アフガニстанで当会も支援している教育施設“寺子屋”の運営に携わっている現地職員2名が来日した機会に、10月22日秋田市で「アフガ

ニстанは今～現地教育関係者の報告～」と題してお話しをして頂きました。



「寺子屋では子どもから年配者まで識字教育や初等教育、職業訓練を行っている。アフガニстанでは、従来女性に教育は必要ないという考えが根強く、女性の識字率は34%と世界でも最低レベル、農村部では5%に満たないところもある。しかし村のリーダーたち自身が寺子屋で学び識字者になることで、女性への教育の必要性を理解し、寺子屋に行くことをすすめるようになっていて、女性たちも寺子屋で学ぶことを楽しんでいる。」と、寺子屋の様子や女性たちが次々に寺子屋で学び続けたいと話す映像を写しながら話してくれました。国の情勢は未だ不安定ながら、私たちの支援活動の意義を実感させる報告会となりました。

1月14日の「ユネスコ・世界のお料理フェスタ」では、秋田大学国際交流センターの平田未季助教からシリアの食文化についてお話しを伺いました。シリアの豊富な農産物、



酪農製品で作られた色とりどりの料理、スイーツの映像に、今のシリアのニュースとのギャップを感じました。平和への道は遠い、でもユネスコ憲章の原点をみつめて活動することで、少しでも平和に近づきたいとの思いを強くしました。

毎年留学生や技術研修員等との 様々な交流事業を実施

秋田県日中友好協会・県日中女性委員会・各地区日中友好協会

秋田県日中友好協会では、毎年留学生や技術研修員等との様々な交流事業を実施しております。

秋田地区日中と県日中女性委員会では、毎年合同で中国留学生秋田地区学友会の会員を招いて友好交流事業として4事業を実施しています。

4月の「お花見会」は、久しぶりに秋田市の千秋公園二の丸広場で開催し、満開の桜の下留学生及び協会会員合わせて50名が参加し、桜祭り広場の催し物を見たり初めて来た留学生の自己紹介などで交流をしました。

7月には、比較的内陸出身者の多い留学生のため、秋田市の下浜海水浴場で「海に親しむ会」を開催。協会会員や留学生等66名が参加し、海水浴やスイカ割りなどに歓声を上げました。

10月は、中国の建国記念日である「国慶節を祝う会」を秋田市内のホテルで開催しビンゴゲームやカラオケなどを行い、68名の参加者が楽しく交流しました。

今年1月末には中国の新年（暦の元旦に合わせて実施）を祝う「春節を祝う会」を市内ホテルで予定しています。

秋田地区協会以外でも各地区協会で活発に交流事業が行われています。7月にはにかほ市日中友好協会「西施まつり」を開催、8月には能代市日中友好協会「第12回友好交流会」、9月には横手市日中友好協会「ぶどう狩り」を行い、技術研修員や会員・市民などとの交流が行われています。

また、9月には県日中女性委員会が中国留学生を招いて、伝統文化である茶道を体験する「浴衣茶会」を会員宅の茶室をお借りして実施しました。10月には県日中と女性委員会がアトリオンで開かれた「国際フェスティバル」に並んでブースを開設、それぞれの活動紹介やバザー、中国の紹介などを行いました。

昨年度からは、学友会の役員に秋田県立大学の留学生も加わり、更には国際教養大学の学生も含めて各種事業に多数参加し、交流の輪が広がっています。

私たちは、遠く国を離れて秋田で暮らす中国人を温かく迎え、市民レベルでの交流事業を進め、日中両国の友好関係が信頼の上で築かれるよう、今後とも長く友好交流事業を実施していきます。



県内在住の留学生らと交流、支援

■ 秋田モンゴル友好協会

秋田モンゴル友好協会は、人類学的に、また言語や相撲などにみられるように文化的なつながりが深く、そのうえ親日的なモンゴル国との友好を深めようという目的で組織しました。そのため、留学などで本県に来た人々と積極的に交流し、留学生らが少しでも快適な環境で秋田での生活を送ってもらえるようなことをやろうと行事を進めています。

具体的には協会の集まりに招待したり、秋田のお祭りなどを案内して、ともに食事をしたり、モンゴルの人たちが互いに連絡を取りやすいよう手助けしたりしています。

まず正月元旦は、県内在住の人たちのほとんどが秋田大学国際交流会館に集って、新年を迎えるというので、会長や事務局長などが参加して一緒に新年を祝いました。また旧暦の元旦に「白い月（サガンサル）」という行事があり、これに会員も加わって会食を共にしています。

3月と8月の修了・卒業、4月と9月の入学などでは送別会、歓迎会を行っており、夏祭りでは土崎の祭典や、各地の花火大会に案内して喜ばれました。

また協会では年3回（1月、5月、9月）会報「蒼天」を発行して、留学生たちの行動を記事にしていますが、これも「記念、記録になった」などと好評です。

そして昨年が目玉は、8月に会長、事務局長など有志がモンゴルを訪問し、首都ウランバートルのホテルで、かつての留学生と懇親会を開いたことで、これには40人余の元留学生らが集まってきて、旧交を温めました。

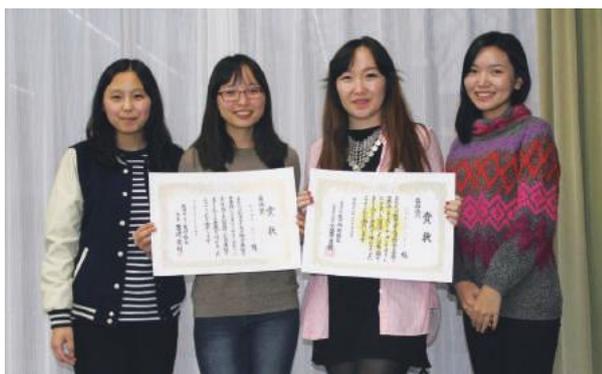
ほかに、秋田ユネスコ協会など主催の日本語スピーチ・コンテストや国際フェスティバル、さらにファッションショーなどにも協賛し、モンゴルの魅力を発信することに務めています。



元留学生との交流（ウランバートル）



ファッションショー



スピーチコンテスト



年越しの宴

秋田での縁を大切に

国際交流オープンクラス

国際交流オープンクラスは、秋田在住の外国の人たちの「日本の文化を知りたい」「日本料理を覚えたい」「母国の料理を多くの人に食べて欲しい」「学んだ日本語をもっと話せる場が欲しい」「自分の国ことを多くの人に伝えたい」等々の思いに応えることからスタートしました。

1990年9月に発足し、27年目をむかえる草の根のボランティア活動グループです。

グループのモットーは、「オープン・ひらかれていること」「アット・ホーム」で、毎回、

楽しい異文化交流をめざしています。

28年度の主な活動は、《私の国あなたの国・文化シリーズ》《旅シリーズ》《笑って元気講座》《ハーモニープラザまつり》等々。

縁あって秋田で学ぶ、秋田工業高等専門学校の留学生たちと共に、楽しい思い出づくりをしていきたいです。

留学生たちに多くの経験・体験をしてもらうと同時に、秋田の人たちにも留学生の国々を知る機会を作りたいと思います。

(代表 伊藤晴美)



留学生交流事業の紹介

秋田工業高等専門学校

【秋田高専留学生の活動紹介】

本校は、平成3年度に最初の留学生を受け入れ、これまで多くの留学生が秋田高専を巣立っていきました。入学してきた留学生に対し、1年間の日本語教育（週6時間）の実施、チューター、留学生指導教員の配置など、きめ細かな留学生教育を行っています。

○外国人による日本語スピーチコンテスト

秋田ユネスコ協会が主催するもので、平成28年度は最優秀賞を1名、優秀賞を1名が受賞しました。



東北地区高専コンソーシアム東南アジア短期受入プログラムにて、ベトナムから2名の短期留学生受入

秋田県立大学

【大学の取組み】

秋田県立大学では、約20名の留学生が在籍しています。博士後期課程学生が大半を占めており、平日は研究に没頭し、休日は国際交流サークルの日本学生メンバーと一緒に農業体験や、ボランティア活動に参加し、地域との交流活動に励んでいます。



ノースアジア大学

【交換留生活動紹介】

ノースアジア大学では、現在台湾の真理大学、韓国の培材大学から交換留学生を受け入れています。留学生は経済学科・観光学科に所属し、日々日本語能力の向上のみならず経済・観光の勉学に励んでいます。

また、学園内外の学生交流プログラムなどにも積極的に参加し、充実した留学生生活を送っています。

(ノースアジア大学HP <http://www.nau.ac.jp/>)



国際教養大学

【Meet People in Akita】

国際教養大学では、これまで県内6市町一八峰町・大仙市・男鹿市・由利本荘市・美郷町・仙北市一と国際交流に関する協定を結び、留学生の派遣、児童・生徒の大学訪問の受け入れなど、双方向の交流を行っています。これらの自治体を通じた交流の他にも、ハロウィンやクリスマスなどのイベントでの就学前児童との交流、小・中学校との英語活動や異文化理解を中心とした交流、農作業や伝統行事を体験させていただきながらの地域の方々との交流なども行っています。今後も、留学生にとって秋田での留学生活が実り多いものになるよう、積極的に交流活動を展開していきます。

国際教養大学ホームページ内に平成27年度実施活動内容を掲載していますのでぜひご覧ください。

<http://web.aiu.ac.jp/exchange/social/>



小学生との交流



地域の田植えへの参加

秋田大学

【留学生等交流実地見学旅行】

秋田大学在学の外国人留学生に秋田の風土や伝承文化を理解してもらうとともに、留学生活の充実を図るため7月9日と7月10日の1泊2日の日程で羽後町、横手市への実地見学旅行を実施しました。19名の外国人留学生が参加し、秋田の文化を肌で感じるとともに普段話す機会のない学生同士の交流も深め、大変有意義な旅行となりました。

【日本のもちつき】

外国人留学生に日本のもちつきやお供え物づくりなどを体験してもらう毎年恒例の行事です。日本の文化に触れるとともに、地域もみなさんとの交流も深めることを目標としており、今年も多くの留学生が参加しました。

この他に、農家民泊や、スキー合宿などの行事を実施しています。秋田大学国際交流センターのホームページ内EVENT REPORTに実修行事を掲載していますので是非ご覧ください。

<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/index.html>



平成28年度 国際交流事業の実施状況

地方自治体・国際交流団体

| No. | 事業名 | 主催団体名 | 開催時期 | 参加者数 ()書きは、 参加留学生数 | 事業の内容 |
|-----|--|-------------------|-----------------------------------|--|---|
| 1 | ロシア青少年交流事業 | 秋田県 | H28.6.21～H28.6.28 | 11 | ロシア沿海地方ウラジオストクにある第51学校へ高校生の団を派遣し、現地生徒との交流や視察を行い、交流を深める。 |
| 2 | 中国天津市友好交流事業 | | H28.7.25～H28.7.30 | 16 | 県内高校生を天津市へ派遣し、現地生徒とものづくりや文化交流などを通じた友好交流を行う。 |
| 3 | 南米ネットワーク構築事業 | | H28.9～H28.12 | 3 | 在南米秋田県人会から研修員を受け入れ、秋田県国際交流協会、県内企業等で研修を行う。 |
| 4 | 甘肅省技術研修員受入事業 | | H28.9～H28.12 | 1 | 中国甘肅省から研修員を受け入れ、秋田県国際交流協会、秋田大学等で研修を行う。 |
| 5 | ロシア専門家受入事業 | | H29.1 | 2 | ロシア沿海地方から医療分野の専門家を受け入れ、県内専門機関での研修を実施する。 |
| 6 | あきたのファミリー | 公益財団法人秋田県国際交流協会 | 通年 | 39組 | ホストファミリーとなる家族を募集し、交流を希望する留学生とのマッチングを行う。 |
| 7 | にはんごでおはなし | | 通年 | 19組 | 在住外国人と日本語でコミュニケーションをするボランティアを募り、マッチングを行う。 |
| 8 | あきた国際フェスティバル2016 | | 通年 | 6,318人 | 在住外国人や国際交流団体による活動紹介やステージパフォーマンスを行う。 |
| 9 | 異文化交流カフェ | | H28.8.20 H28.11.19 H29.2.18 | 46(4) | 秋田大学地域連携プロジェクトゼミの学生と共同で開催。異文化理解に関するテーマを決め、参加者がクイズやゲーム等で交流しながら理解を深める。 ※毎回参加者を30人募集 ※参考:実施状況 ・8月20日「Wear the World ～着がえて踊ってパーティだ～」 ・11月19日「Sweets Parior ～世界のおいしさをみつけたっ!」 ・2月18日「親子で楽しむせかいのおはなし」 |
| 10 | クリスマス交流会 | | H28.12.10 | 88(8) | 留学生や在住外国人と県民が各国の文化等にちなんだクイズやゲームを楽しみ、相互交流を図る。 |
| 11 | (秋田県受託事業) ロシア青少年交流事業 | | H28.6.21～H28.6.28 | 11 | 県内高校生をロシア沿海地方ウラジオストクにある第51高校へ派遣し、現地の高校生との友好交流を実施した。 |
| 12 | (秋田県受託事業) 天津市青少年交流事業 | | H28.7.25～H28.7.30 | 16 | 県内高校生を中国天津市にある天津第九中学校および天津中学校へ派遣し、現地の学生との友好交流を実施した。 |
| 13 | (秋田県受託事業) 甘肅省技術研修員等受入事業 | | H28.9～H28.12 | 1 | 秋田県と友好関係にある甘肅省より技術研修員を受け入れ、秋田県内で様々な研修を行うことにより、帰国後はその技術、知識を活かし、自国の発展に貢献する。また一般県民との交流を通じて相互理解を深める。 |
| 14 | (秋田県受託事業) 南米研修員受入事業 | | H28.9～H28.12 | 3 | 在南米秋田県人会の推薦を受けた人材を研修員として受け入れ、秋田県国際交流協会、秋田大学、民間企業等で研修を行い、県人会の後継者として育成する。また、県民との交流活動を実施することで地域の国際化を促す。 |
| 15 | (秋田県受託事業) ロシア専門家受入事業 | H29.2 | 2 | ロシア沿海地方より医療分野等の専門家を受入れし、県内の専門機関で研修を行う。 | |
| 16 | 秋田市日本語教室 | 秋田市 | 毎週木曜日 (年間38回予定) | 406(98) | 外国人住民の基礎的な日本語習得を支援するため、日本語教室を開催する。 |
| 17 | 蘭州市代表団受入事業 | | H28.7.12～H28.7.14 | 6(0) | 副市長を団長とする訪問団を受入れ、友好交流協議を行った。 |
| 18 | 蘭州市研修員受入事業 | | H28.10.11～H28.12.9 | 4(0) | 友好都市の中国・蘭州市から医師2名および教員2名を受入れ、2か月の研修を行う。 |
| 19 | 「秋田市国際フェスタ in なかいち～秋田市友好・姉妹都市交流展～」の開催 | | H28.11.26 | 900 | 本市の友好・姉妹都市等との交流やパネル展示、食文化、特産品の紹介等を通して、各都市の魅力を広くPRすることにより、国際交流および国際協力への理解を促進した。 |
| 20 | 秋田市-ウラジオストク市姉妹都市提携25周年記念事業「ロシア歌と踊りのアンサンブル」 | | H28.11.27 | 900 | ロシア極東国立芸術大学教授陣と卒業生による民族音楽アンサンブルを招き、市民無料招待のコンサートを開催し、優れた音楽とこれまで培ってきた交流を市民へ還元した。 |
| 21 | 日本語教室 | 藤里町国際交流協会 | 月2回(水曜日) | 2 | 外国出身者向けの日本語教室を定期的に開催 |
| 22 | 日本語教室 | にはんごCOCOの会 | 毎週月・水曜日 | 200(0) | ※市内在住(1年以上在住または1年以上在住予定の方)の外国籍市民が日常生活を円滑に営むための日本語教室を実施。年間40回程度。参加人数はその日によって変動するが、5～10名程度。 |
| 23 | 大館市外国籍市民交流サポート事業 | 大館市外国籍市民くらしのサポーター | 月・火・水・金曜 ※年末年始を除く。 | | ※現在サポーター2名。外国籍市民からの悩みごとの相談を受け付ける。 |
| 24 | 日本語講座 | 能代市 | 4月～3月 | 1,800 | 市内在住の外国出身者が、日常生活に必要な日本語の会話及び読み書き、日本や地域の文化を学ぶ 火曜日:19:00～21:00 木曜日:10:00～12:00 |
| 25 | 日本語指導ボランティア養成講座 | | 4月～3月 | 300 | 日本語指導法の基礎を学ぶ |
| 26 | ふれあい交流事業 | | 4月～3月 | 350 | 盆踊り会、お茶会などを通じて、市民と日本語講座参加者の交流を行う |

| No. | 事業名 | 主催団体名 | 開催時期 | 参加者数 ()書きは、 参加留学生数 | 事業の内容 |
|-----|---------------------------|--|--|---------------------------|---|
| 27 | 外国語指導助手(ALT)派遣事業 | 能代市 | 4月～3月 | 2 | 国際化の進展に対応するため、外国青年(外国語指導助手)を派遣し、能代市における英語教育及び国際理解教育の充実を図る。 |
| 28 | 月例研修会 | にかほ市 日中友好 協会 | 年3回 | 各回15名 程度 | 国籍を問わず活躍されている方を講師として開催する研修会。各回異なる講師をお願いし、国際交流への理解を深める。 |
| 29 | 西施祭り | | H28.7.31 | 約30 | 蛸満寺・象潟公民館において開催。松尾芭蕉の俳句で詠まれた中国四大美人の一人「西施(浙江省諸暨市出身)」を縁とした事業。 |
| 30 | アナコーテス市との姉妹都市交流20周年記念事業 | アナコー テス交流 協会 | H28.4.11～ H28.4.15 | 12 | アナコーテス市との姉妹都市交流20周年を記念し、大人訪問団12名を受入。 |
| 31 | アナコーテス市中学生交流派遣事業 | | H28.7.30～ H28.8.5 | 13 | 姉妹都市アメリカ・ワシントン州アナコーテス市より中学生11名と引率2名を受入。ホームステイを通じて交流を行う。 |
| 32 | 国際料理交流会 | | H29.2.25 | 約60 | 秋田県在住の外国人を講師とした料理交流会。 |
| 33 | ショウニー市中学生交流受入事業 | ショウ ニー交流 協会 | H28.8.3～ H28.8.8 | 10 | 姉妹都市アメリカ・オクラホマ州ショウニー市から中学生8名と引率2名を受入。ホームステイを通じて交流を行う。 |
| 34 | ショウニー市中学生交流派遣事業 | | H28.10.25～ H28.11.1 | 17 | 姉妹都市アメリカ・オクラホマ州ショウニー市へ中学生14名と引率3名を派遣。ホームステイを通じて交流を行う。 |
| 35 | 国際交流展 | にかほ市 国際交流 協会 | H28.10.29～ H28.10.31 | 会場来 場予約 6000 | 市文化祭会場において、市内各交流協会が交流について事業紹介の展示を行う。 |
| 36 | 国際教養大学交流事業 | | H28.6.1～ H29.2.17 | 2282(216) | 大仙市内の幼稚園・保育所・認定こども園の幼児、小学校児童、中学生生徒が国際教養大学の留学生とさまざまな交流(来校・来園及び大学訪問)を行う。生徒たちは留学生を通して、直接異文化に触れる体験ができ、また、互いに異なるものを受容する心やコミュニケーション能力を養うことができる。 |
| 37 | 韓国唐津市青少年派遣事業 | | H28.8.4～ H28.8.8 | 6(0) | 平成27年に締結した「韓国唐津郡との間における友好交流に関する協定」に基づき、大仙市と唐津市の中学生が交互に訪問し交流を行う。平成28年度は大仙市の中学生4名と引率2名が唐津市を訪問し韓国文化体験やホームステイなどを通して韓国の中学生と交流を行った。 |
| 38 | 韓国唐津市副市長招聘事業 | 大仙市 | H28.8.26～ H28.8.29 | 6(0) | 友好交流都市韓国唐津市の副市長、職員6名を受け入れ、本市の「大曲の花火」へ招待した。また市内の農業施設等を視察し、相互理解を深めた。 |
| 39 | 国際交流事業 | | H29.1.3～ H29.1.11 | 20(0) | 市内在籍中学生を海外に派遣し、ホームステイ等で生きた英語にふれながら、国際感覚を養い、国際理解を深める。 |
| 40 | 外国青年招致事業(JETプログラム) | | 通年 | 9(0) | 外国語指導助手(ALT)及び国際交流員(CIR)として外国青年を招致し、市内の幼稚園・保育所・認定こども園の幼児及び小・中学校児童生徒の語学力の向上と国際理解教育の推進、地域住民の異文化理解のための交流活動の推進を図る。 |
| 41 | 国際フェスティバルin大仙 | | H28.10.15 | 300 | 在住の外国人や国際交流・協力を行っている団体などと一緒にはイオン大曲を会場にステージパフォーマンスやブース展示などを行う。 |
| 42 | 韓国LABO青少年派遣事業 | 大仙市 国際交流 協会 | H28.7.24～ H28.7.31 | 10(0) | 韓国LABOが主催するキャンプやホームステイに参加し、日本と韓国の歴史・文化・生活習慣の違いなどを体験する。 |
| 43 | 韓国LABO青少年受入事業 | | H29.1.16～ H29.1.23 | 11(0) | 韓国LABOから派遣される青少年が大仙市を訪問し、ホームステイや日本文化体験、スキー体験などを行う。 (青少年9名、引率2名受入) |
| 44 | 大仙・仙北広域 外国籍住民等サポート事業 | 大仙・仙北 広域外国 籍住民等 サポート 事業運営 委員会 | 通年 | 28(0) | 大仙市・仙北市・美郷町との広域連携事業として在住の外国籍住民等の相談に相談員が対応し外国籍の方が安心、安全に生活をしていけるようサポートをする。 |
| 45 | 大仙・仙北広域圏日本語講座 | 大仙・仙北 広域圏日 本語講座 運営委員 会 | 大仙会場:毎週木 曜・火曜 仙北会場:毎週日曜 美郷会場:毎週火曜 | 各回 3～10名程 度 | 大仙市・仙北市・美郷町との広域連携事業として、在住外国人の日本語能力向上と地域国際化を推進するため、日本語教育ボランティアによる日本語講座を行う。 |
| 46 | 国際教養大学との交流事業 | | 通年 | 778(70) | 男鹿市内の小・中学が国際教養大学の留学生との交流を通じて、外国語や外国の文化に理解を深め国際感覚の優れた人材育成を目指す。交流会、英会話教室、国際教養大学訪問 |
| 47 | 外国語助手招致事業 | 男鹿市 | 通年 | 3 | 英語指導助手(ALT)として外国青年を招致し、市内の小・中学校児童生徒の語学力の向上と国際理解教育の推進を図る。 |
| 48 | 日本語教室 | | 月2～3回(土曜日) 年間24回程度開催 予定 | 106 | 日本語を母国語としない市内在住者を対象に、日本語の書き方、読み方、風習、日本文化等を学ぶ日本語教室を開催。 |
| 49 | あきたべん弁論大会 クリスマスパーティー | 男鹿市 国際交流 協会 | H28.12.18 | 36(7) | 秋田弁の温もりと、人・文化の再発見を目的に、県内大学への留学生による弁論大会を実施した。弁論大会終了後には、クリスマスパーティーを開催し、市民との交流を図った。 |
| 50 | 中国・無錫市訪問団受入事業 | | H28.4.25～ H28.4.26 | 20(0) | 本市の友好交流都市である中国・無錫市より無錫市人民政府弁公室副秘書長を団長とする6名の訪問団が来市し、市内視察や日本文化体験を通して交流を図った。 |
| 51 | ハンガリー・ヴァーツ市公式訪問団受入事業 | 由利本 荘市 | H28.7.19～ H28.7.25 | 20(0) | 本市の友好都市であるハンガリー・ヴァーツ市より副市長を団長とする公式訪問団3名が来市し、市内視察や日本文化体験を通して交流を図った。 |
| 52 | ハンガリー・ヴァーツ市青少年友好交流訪問団受入事業 | | H28.7.26～ H28.8.3 | 70(0) | 本市の友好都市であるハンガリー・ヴァーツ市より15名の青少年友好交流訪問団(学生13名、引率2名)が来市し、市内中高生宅にホームステイをしながら、市内視察や日本文化体験を行い、相互交流を図った。 |

| No. | 事業名 | 主催団体名 | 開催時期 | 参加者数 ()書きは、 参加留学生数 | 事業の内容 |
|-----|-------------------------|------------------------|------------------------|---------------------------|---|
| 53 | 中国・無錫市国際友好都市交流訪問団派遣事業 | 由利本荘市 | H28.11.1～H28.11.4 | 3(0) | 本市の友好交流都市である中国・無錫市で開催される国際友好都市交流会に市幹部職員を含む3名が出席し、無錫市との意見交換や市内視察を通して交流を図った。 |
| 54 | 中国・無錫市桜友誼林建設30周年記念訪問事業 | | H29.3.27 | 4(0) | 本市の友好交流都市である中国・無錫市で開催される桜友誼林建設30周年記念式典に市幹部職員を含む4名が出席する。 |
| 55 | 国際・日韓児童絵画交流展 | 由利本荘市 (公財)由利本荘青年会議所 | H28.8.22～H28.8.24 | | ハンガリー・ヴァーツ市、中国・無錫市、ベルギー・ブリュージュ市の児童の絵画を展示するとともに、(公財)由利本荘青年会議所が主催する日韓児童交流絵画コンテストと共同開催し、韓国・梁山市、にかほ市、由利本荘市の児童の絵画もあわせて、計84点の絵画を展示した。 |
| 56 | 日本語教室 | 横手市(地域づくり支援課) | 通年 | 220(0) | 在住外国人向けの日本語教室 金曜日 10:00～12:00 5名程度/年44回 |
| 57 | 明海大学留学生招待事業 | | H28.10.8～H28.10.10 | 32(10) | 明海大学(千葉県浦安市)に通う留学生が横手市にホームステイし、各種体験を行う。 |
| 58 | | H29.2.10～H29.2.12 | 32(10) | | |
| 59 | 秋田大学留学生横手市農業体験ツアー | 横手市(農業政策課) | H28.6.4～H28.6.5 | 40(31) | 農業や農家民泊、伝統文化等の体験を通じて、横手市の魅力を感じてもらう。 |
| 60 | 国際的産学官連携モデル事業 | 横手市(観光おもてなし課) | H28.4.19～H28.4.25 | 38(24) | 大同大学(台湾)、国際教養大学、秋田公立美術大学の留学生等が横手市に滞在し、横手市の観光PR資料の作成、インターシップを行う。 |
| 61 | | | H28.8.1～H28.8.31 | 2(2) | |
| 62 | | | H29.2.15～H29.2.16 | 2(2) | |
| 63 | 八峰町国際交流事業 | 八峰町 | H28.5.21 | 20(8) | オリエンテーション シーカヤック |
| 64 | | | H28.6.17 | 200(9) | 町内中学校との交流(英語)ホームステイ |
| 65 | | | H28.6.18 | 20(9) | ニッ森トレッキング |
| 66 | | | H28.7.15 | 270(9) | 町内小学校との交流(英語)ホームステイ |
| 67 | | | H28.7.16 | 40(9) | 児童クラブとの交流町内ジオサイト |
| 68 | | | H28.9.24 | 20(8) | オリエンテーション町内ジオサイト |
| 69 | | | H28.10.4 | 70(10) | 町内中学校AIU訪問 |
| 70 | | | H28.10.7 | 35(6) | 町内小学校AIU訪問 |
| 71 | | | H28.10.26 | 35(6) | 町内小学校AIU訪問 |
| 72 | | | H28.10.28 | 200(8) | 町内中学校との交流(英語) そば打ち体験 |
| 73 | | | H28.10.29 | 50(8) | 町内子ども園との交流(英語) 町民との交流(民謡体験) |
| 74 | | | H28.11.18 | 200(8) | 町内中学校との交流(英語) ホームステイ |
| 75 | | | H28.11.19 | 55(8) | 町内子ども園との交流(英語) 町民との交流(ユニカル体験) |
| 76 | | | H28.12.2 | 270(8) | 町内小学校との交流(英語) |
| 77 | | | H29.1.14 | 30(7) | 伝統文化交流会「餅つき及び書道体験」 |
| 78 | | | H29.2.3 | 270(8) | 町内小学校との交流 ホームステイ |
| 79 | | | H29.2.4 | 60(8) | 町内子ども園との交流 町民との交流 |
| 80 | | | H29.3.4 | 40(8) | 八峰町民との交流「外国のランチづくり」 |
| 81 | 外国語活動充実事業 | 鹿角市 | H28.4～H29.3 | 2(0) | ALT(外国語指導助手)を配置し、小・中学生等の実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。 |
| 82 | | | H28.6.18～H28.12.17 | 103(0) | 英語学習講座「サタデーイングリッシュ」を実施し、小・中学生の外国語教育の充実を図る。 全8回。 |
| 83 | 日本語講座開設事業 | | H28.5.7～H28.12.3 | 163(0) | 本市に居住している外国人を対象に日本語講座を開催。 ※参加申込者は11名、参加者数は延べ人数。 |
| 84 | かつの・ショプロンのハーモニー友好交流記念事業 | | H28.10.2 | 550(0) | ハンガリー国ショプロン市より四重奏楽団を招致し、「ショプロンの調べ」コンサートを開催したほか、地元高校吹奏楽部への音楽ワークショップを開催。 |
| 85 | かつの・ショプロンのハーモニー友好交流記念事業 | | H28.10.3 | 90(0) | ハンガリー国ショプロン市より四重奏楽団を招致し、小・中学校の音楽授業を訪問して、相互による楽器演奏など、音楽を通じた交流を図る。 |
| 86 | ハンガリー国ショプロン市行政訪問団受入事業 | | H28.11.5～H28.11.11 | 6(0) | ハンガリー国ショプロン市から行政訪問団を受入れ、市内の企業、学校、産業を視察するとともに、市民との交流を図る。 |
| 87 | 国際交流企画展 | | H29.2.2～H29.3.28 | | 今年度のショプロン市との交流、かつの・ショプロンのハーモニー友好交流記念事業の実施内容について紹介し、国際交流についての意識向上を図る。 |
| 88 | 英会話講座 | 鹿角国際交流協会 | H28.4.22～H29.3.24 | 144(0) | 市民向け英会話講座の開催・第2・4金曜日 全20回 ※参加申込者は16名、参加者数は1月末までの延べ人数。 |
| 89 | 中国語講座 | | H28.4.22～H29.3.24 | 31(0) | 市民向け中国語講座の開催・全14回 ※参加申込者は5名、参加者数は1月末までの延べ人数。 |
| 90 | ハンガリー講座 | | H28.11.18 H28.11.19 | 34(0) | 市民向けハンガリー講座(クリスマスカード作成会)の開催・全2回。 |
| 91 | 国際理解講座 | | H28.9.17 | 80(0) | 第8代日本語学指導員の帰国報告会と、数学者で大道芸人のピーター・フランクル氏による講演会。 |

| No. | 事業名 | 主催団体名 | 開催時期 | 参加者数 ()書きは、 参加留学生数 | 事業の内容 | |
|-----|--|--------------------------|---------------------------------------|---|--|---|
| 92 | ハンガリー国ショブロン市友好交流事業 | 鹿角国際交流協会 | H28.7.28～H28.8.4 | 4(0) | ハンガリー国ショブロン市よりホームステイ訪問団を受入れ、市民との異文化交流を図る。 | |
| 93 | 日本語語学指導員派遣事業 | | H26.10～H28.8 | 1(0) | ハンガリー国ショブロン市へ日本語語学指導員(8代目)を派遣し、ショブロン市民を対象とした日本語教室を開催。 | |
| 94 | | | H28.10～H30.8 | 1(0) | ハンガリー国ショブロン市へ日本語語学指導員(9代目)を派遣し、ショブロン市民を対象とした日本語教室を開催。 | |
| 95 | 国際料理教室 | | H28.7.30 H28.11.27 H29.2.26(予定) | 72(0) | 在住外国人を講師に迎え、市民向け料理教室を開催・全3回。 ※参加者数は1月末までの延べ人数。 | |
| 96 | 通訳BANK登録事業 | H28.4～H29.3 | 9(0) | 在住外国人や市内に訪れた外国人を通訳面からサポートするメンバーの募集及び登録。 | | |
| 97 | 日本語教室開催事業 | 北秋田市 | 通年 | 各回10名程度 | 月2,3回 日曜10:00～12:00 地域の行事や各種イベントに参加し、地域に溶け込めるように優しい日本語の指導を行うほか、生活習慣の指導サポート行う。 | |
| 98 | JENESYS2.0事業 (中国青年メディア関係者第1弾) | 仙北市 | H28.8.25～H28.8.26 | 32 | 角館高校の生徒と交流し、仙北市内農家民宿での農山村体験や日本の文化体験を行う。 | |
| 99 | JENESYS2.0事業 (日韓クリエイター交流プロジェクト) | | H28.10.5～H28.10.7 | 33 | 仙北市内農家民宿に滞在。農山村体験や日本の文化体験などを行う。 | |
| 100 | JENESYS2.0事業(北方4島交流受入事業) | | H28.10.12～ H28.10.13 | 37 | 仙北市内農家民宿に滞在。農山村体験や日本の文化体験などを行う。 | |
| 101 | タイBCC修学旅行受入 | | H28.10.12～ H28.10.14 | 60 | 角館高校の生徒と交流し、仙北市内農家民宿での農山村体験や日本の文化体験を行う。 | |
| 102 | 台湾教育旅行視察団受入 | | H28.10.12～ H28.10.13 | 10 | 日本への教育旅行を検討している台湾の学校の先生を招致し市内を視察(JNTO主催) | |
| 103 | 台湾修学旅行受入(台中市立恵文高校) | | H28.11.10～ H28.11.12 | 32 | 角館高校の生徒と交流し、仙北市内農家民宿での農山村体験や日本の文化体験を行う。 | |
| 104 | JICA2016年度青年研修 (モンゴル再生可能エネルギー研修) | | H28.11.12～ H28.11.13 | 14 | 角館高校の生徒と交流し、仙北市内農家民宿での農山村体験や日本の文化体験を行う。 | |
| 105 | 第3回アートプロジェクト(韓国) | | H29.1.22～H29.1.23 | 29 | 市立松木内小学校の児童と交流し、仙北市内農家民宿での農山村体験や小学校で紙風船の作成など地域の文化体験を行う。 | |
| 106 | 台湾修学旅行受入(台北市立景美女子高校) | | H29.2.5～H29.2.7 | 30 | 角館高校の生徒と交流し、仙北市内農家民宿での農山村体験や日本の文化体験を行う。 | |
| 107 | 台湾修学旅行受入(桃園市立龍潭高校) | | H29.2.22～H29.2.23 | 29 | 仙北市内農家民宿での農山村体験や日本の文化体験を行う。 | |
| 108 | 台湾修学旅行受入(桃園市立平鎮高校) | | H29.2.15～H29.2.16 | 35 | 仙北市内農家民宿での農山村体験や日本の文化体験を行う。 | |
| 109 | 文化講座 ユネスコ世界記憶遺産: 「山本作兵衛の炭坑画と筑豊の炭坑史」 | | 秋田ユネスコ協会 | H28.4.10 | 40 | ジョイナスにて実施。 講師:今井忠男氏(秋田大学国際資源学部教授) 労働者の目線で描いた作兵衛の炭坑画は、日本初のユネスコ世界記憶遺産に登録。 |
| 110 | 中学・高校生のためのユネスコ・ユースセミナー 「皆で平和の鐘をつき、心に平和の砦を築こう」 | | | H28.8.15 | 15 | にぎわい交流館AUにて実施。戦争体験者の語りから平和の大切さを学ぶ。その後千秋公園に移動して「時鐘」をつき、平和への誓いをした。 |
| 111 | あきた国際フェスティバル2016 | | | H28.10.1 | 130 | イオンにて実施。アフガニスタン寺子屋支援バザー、アフガニスタンの寺子屋の紹介。 |
| 112 | 国際理解セミナー 「アフガニスタンは今～現地教育関係者の報告～」 | H28.10.22 | | 35 | ジョイナスにて実施。 現地寺子屋スタッフの来秋を得て、教育事情を始め、国情が悪化している中での人々の暮らしぶりを学ぶセミナー。日本とアフガニスタンの相互理解の機会とす。 | |
| 113 | 外国人による日本語スピーチ・コンテスト | H28.11.13 | | 110(34) | ジョイナスにて実施。 スピーチを通して一層の相互理解、国際交流が図られることを期待。聴く人々もスピーチの中から新しい視点を得ながら「共に生きる国際社会」の実現をみんなで考える | |
| 114 | ハーモニープラザまつり2016 | H28.11.20 | | 60 | アトリオンにて実施。 寺子屋支援バザーと活動紹介。 | |
| 115 | ニューイヤー2017. 「ユネスコ・世界のお料理フェスタ」 | H29.1.14 | | 150(50) | ジョイナスにて実施。 食を通していろいろな国の人々生活、文化を感じ、国際交流を図ることを目的とす。 | |
| 116 | 書き損じはがき回収キャンペーン | H29.1.28～29 | | 150 | ほまろ〜にて実施。 集まったはがきは切手や現金に換え、日本ユネスコ協会連盟を通してアフガニスタンの識字教育や生活向上プログラムの支援に使われる。 | |
| 117 | ホームステイ・ホームビジット受け入れ | 一般財団法人言語交流研究所ヒップファミリークラブ | 毎月1回 | 240(36) | ホームステイ・ビジット受け入れ時に定例活動にて交流(多言語での自己紹介・多言語のゲーム等)イラン(2)・ホンジュラス(1)が参加 | |
| 118 | お花見交流会 | | H28.4.23～24 | 20(2) | 秋田大学留学生と会食・ゲーム・懇談等(イラン1名・ホンジュラス1名が参加) | |
| 119 | 母の日交流会 | | H28.5.7～5.8 | 20(4) | 秋田大学留学生と会食・ゲーム・母の日のカード作り(折り紙等にて)・懇談等(イラン2名・ホンジュラス1名・ウクライナ1名が参加) | |
| 120 | 土崎港祭交流会 | | H28.7.20 | 4(4) | 秋田大学留学生と会食・浴衣を着て土崎港祭を見学・ふれあい曳山体験(イラン2名・ホンジュラス1名・ウクライナ1名が参加) | |

| No. | 事業名 | 主催団体名 | 開催時期 | 参加者数 ()書きは、 参加留学生数 | 事業の内容 |
|-----|----------------------------------|---------------------------|-----------------|---------------------------|--|
| 121 | 青少年交流プログラム | 一般財団法人言語交流研究所ヒッコポファミリークラブ | H28.7.22～8.3 | 1 | 会員の小学校5年生1名が韓国(京畿道)へホームステイ交流に参加 |
| 122 | 青少年交流プログラム | | H28.7.23～8.25 | 1 | 会員の中学校1年生1名がアメリカ(カリフォルニア)へホームステイ交流に参加 |
| 123 | JICAホームステイ受け入れ | | H28.7.23～7.24 | 2(2) | ザンビア1名・ウガンダ1名を迎え、かまくら館(横手)、ふるさと村(横手)を見学し交流する。 |
| 124 | 夏の交流会とホームステイ報告会 | | H28.8.27～8.28 | 20(1) | 秋田大学留学生と会食・ゲーム・この夏のホームステイを体験した会員(小学5年生韓国・中学1年生アメリカ)の報告会(ホンジュラス1名が参加) |
| 125 | 秋の交流会 | | H28.9.24～9.25 | 20(2) | 秋田大学留学生と会食・ゲーム・懇談等(イラン1名・ホンジュラス1名が参加) |
| 126 | (AIA主催) あきた国際フェスティバル2016 | | H28.10.1 | 20 | 御所野イオンモールにてブースとスタンプラリーに参加 |
| 127 | ハロウィン交流会とホームステイ準備会 | | H28.10.22～10.23 | 25(2) | 秋田大学留学生と会食・ピニャータ割り・トリックオアトリート・ほうきりレー等を実施。冬にメキシコにホームステイする会員の為の準備会も実施。(イラン2名が参加) |
| 128 | 秋の交流会 | | H28.11.5～11.6 | 25(2) | 秋田大学留学生と会食・ゲーム・懇談等(マレーシア1名・ホンジュラス1名が参加) |
| 129 | クリスマス交流会とホームステイ準備会 | | H28.12.17～12.18 | 25(1) | 秋田大学留学生と会食・ゲーム・懇談・プレゼント交換・メキシコにホームステイする会員の為の準備会(中国1名が参加) |
| 130 | 新年交流会とホームステイ報告会 | | H29.1.21～1.22 | 25(3) | 秋田大学留学生と会食・ゲーム・日本の伝承遊び体験・懇談・メキシコホームステイ報告とマレーシアホームステイ準備会(マレーシア1名・中国1名・イラン1名が参加) |
| 131 | 春の交流会 | | H29.2.19～2.20 | 未定 | 秋田大学留学生と会食・ゲーム・懇談・マレーシアホームステイ準備会(マレーシア1名・中国1名・イラン1名が参加予定) |
| 132 | フェアウエルパーティー | | H29.3.19～3.20 | 未定 | 帰国する秋田大学留学生と会食・ゲーム・懇談等を予定(ホンジュラス1名・中国1名・イラン1名・マレーシア1名が参加予定) |
| 133 | 青少年交流プログラム | | H29.3.中旬より | 1(予定) | 会員の中学1年生1名がマレーシアへホームステイ交流へ参加予定 |
| 134 | 笑いヨガ&トーク&トーク | 国際交流オープンクラス | H28.6.12 | 25(9) | 笑顔を作って、秋田高専の留学生との交流 |
| 135 | 旅シリーズ | | H28.7.22 | 54 | 青森田舎館村の田んぼアートへ |
| 136 | 笑って元気講座 | | H28.10.2 | 21(5) | 笑いの輪・和・話をひろげて、元気になろう! |
| 137 | 笑って元気講座 | | H28.10.16 | 27 | 〃 |
| 138 | 笑って元気講座 | | H28.11.6 | 30(2) | 〃 |
| 139 | ハーモニープラザまつり2016 | | H28.11.20 | 8(2) | フリーマーケット |
| 140 | 日本の文化シリーズ | | H29.1.22 | 50(4) | 琴・三絃・尺八の鑑賞 |
| 141 | マレーシアの料理&トーク | | H29.1.29(予定) | | マレーシアの料理を作ろう |
| 142 | 日本文化シリーズ | | 2月(予定) | | 折り紙をしよう |
| 143 | 2016年度通常総会 | | H28.6.4 | 18(11) | 総会終了後 留学生との交流懇談会 |
| 144 | モンゴル親善訪問 | H28.8.19～8.24 | 14 | 元留学生らと歓談 | |
| 145 | (秋田地域留学生等交流推進会議主催)第三の故郷を見つける農家民泊 | 秋田モンゴル友好協会 | H28.8.19～8.24 | 1(11) | 仙北市西木村にて農作業・農家民泊体験(当会より寄付) |
| 146 | (秋田ユネスコ協会主催)外国人による日本語スピーチコンテスト | | H28.11.13 | 2(2) | 当会より秋田モンゴル友好協会賞を贈呈 |
| 147 | モンゴルの旧正月を祝う | | H29.2.26～2.27 | 未定 | モンゴルの旧正月を祝う会を予定 |
| 148 | 桜を楽しむ会 | 秋田地区日中友好協会・秋田県日中女性委員会 | H28.4.23 | 50 | 秋田大学等の中国留学生を招いての観桜会(千秋公園二の丸広場) |
| 149 | 海に親しむ会 | | H28.7.30 | 66 | 秋田大学等の中国留学生を招いて交流(下浜海水浴場) |
| 150 | 国慶節を祝う会 | | H28.10.8 | 68 | 秋田大学等の中国留学生等を招いて伝統文化である茶室での茶道体験(秋田市市内会員宅) |
| 151 | 春節を祝う会 | | H29.2.4(予定) | 70(予定) | 秋田大学等の中国留学生を招いての祝う会(秋田ビューホテル) |
| 152 | 第12回友好交流会 | 能代市日中友好協会 | H28.8.28 | 44 | 能代市内の中国技術研修員等を招いて交流(八峰町道の駅浜公園内グランドゴルフ場) |
| 153 | 西施まつり | にかほ市日中友好協会 | H28.7.31 | 100 | 象潟にゆかりのあるまつりについて県立大の留学生を招いて交流(甘満寺、象潟町内) |
| 154 | ぶどう狩り交流 | 横手市日中友好協会 | H28.9.17 | 46 | 横手市内の中国技術研修員を招いて交流 |
| 155 | 浴衣で茶の湯を楽しむ会 | 秋田県日中女性委員会 | H28.9.25 | 20 | 秋田大学の中国留学生等を招いて伝統文化である茶室での茶道体験(秋田市市内会員宅) |
| 156 | 奨学金 | 国際ソロプチミスト秋田 | H28.4 | 1(1) | 留学生1名へ年間20万円の奨学金を給付 |
| 157 | 奨励賞 | | H28.11.13 | 1(1) | 秋田ユネスコ協会主催「日本語スピーチコンテスト」において奨励賞(国際ソロプチミスト秋田)を授与。 |

大学・高専

| No. | 事業名 | 主催団体名 | 開催時期 | 参加者数 ()書きは、 参加留学生数 | 事業の内容 |
|-----|-----------------------------|-------------------|-------------------|---------------------------|---|
| 1 | 八峰町との交流プログラム | 国際教養 大学 | 通年 | 98(96) | 平成19年から実施している、交流協定に基づく交流事業。八峰町内の子ども園、小学校、中学校を本学学生(日本人学生および留学生)が訪問し、英語クラスやイベントに参加するなどして、異文化交流を推進している。八峰町内でのホームステイや、小・中学生が大学を訪問しての交流も行っている。 |
| 2 | 大仙市との交流プログラム | | 通年 | 226(216) | 平成21年から実施している、交流協定に基づく交流事業。大仙市内の幼稚園・保育園・こども園、小学校、中学校と本学留学生とが交流。大仙市内へ出向いたり、児童・生徒が本学を訪問するなど、双方向の交流を行っている。 |
| 3 | 男鹿市との交流プログラム | | 通年 | 79(78) | 平成22年から実施している、交流協定に基づく交流事業。男鹿市内の小・中学校を本学の留学生が訪れ、英語による交流活動を行っている。 |
| 4 | 由利本荘市との交流プログラム | | 通年 | 149(141) | 平成23年から実施している、交流協定に基づく交流事業。由利本荘市内の小中学校を中心に、小学生と本学留学生との異文化交流を実施している。 |
| 5 | 美郷町との交流プログラム | | 通年 | 29(29) | 平成24年から実施している、交流協定に基づく交流事業。美郷町内のこども園・小・中学校を本学の留学生が訪れたり、小・中学生の大学訪問を受け入れたりしながら英語による交流活動を行っている。 |
| 6 | 県内教育機関や各種団体との交流 | | 通年 | 591(433) | 交流協定を結んでいる市町以外の教育機関の児童・生徒や地域の方々との相互交流を行っている。 |
| 7 | サテライトセンターでのカンパセションパートナー(講座) | | 毎週土曜日 | 59(59) | 秋田市内明徳館ビル二階にあるサテライトセンターでの活動。毎週土曜日に一般利用者が英会話能力の向上を兼ねて留学生と交流をする。 |
| 8 | モニターツアー等 | | 通年 | 182(137) | 県内の名所や祭等をめぐるモニターツアーや、秋田の名産試食モニター |
| 9 | 新入生歓迎パーティー | 秋田県立 大学 | H28.4.14 | (20) | 新入生を歓迎するパーティーを開催 |
| 10 | 春の遠足 | | H28.4.17 | (11) | 本荘市公民館主催するイベントに参加し、地域の方と交流を深める |
| 11 | 菜の花まつり2016 | | H28.5.22～H28.5.23 | (3) | 由利本荘市主催する島海高原菜の花まつりにボランティアとして参加し、地域貢献活動を行う |
| 12 | 田植え体験 | | H28.5.28 | 6 | 地域の子供たちと一緒に田植えを体験し、秋田の農業について学ぶ |
| 13 | 西施まつり | | H28.7.31 | 7 | にかほ市主催まつりに参加し、地域の方と文化交流を行う |
| 14 | 大学祭 | | H28.10.8～H28.10.9 | 4 | 大学祭では、留学生のブースを出店し出身国料理を地域の方に紹介 |
| 15 | 稲刈り体験 | | H28.10.15 | 6 | 稲刈りを体験し、地域の方と交流を深める |
| 16 | 新山裸まいり | | H29.1.15 | 3 | 長い歴史を持つ地域のまつりに参加し、秋田の冬行事を体験 |
| 17 | ミニかまくら作り | | H29.1.29 | 10 | 廃油で作ったろうそくを利用し、地域の子供たちと一緒にミニかまくら作りし、学生同士・地域の方々との絆を深める |
| 18 | 大学祭 | ノース アジア大学 | H28.7.2・3 | 約800(3) | 大学祭において所属ゼミ又は所属学部の催し物に参加し、地域の方々と交流した。全体の参加者数は関係学生数。 |
| 19 | スキー体験 | | H29.3(予定) | 未定 | 秋田県内のスキー場でスキー体験 |
| 20 | 4月新入学留学生歓迎パーティー | 秋田大学 | H28.4.5 | 80(63) | 新入学生と留学生寮近隣住民・教職員・日本人チューターによるパーティー交流会 |
| 21 | 夏の留学生実地見学旅行 | | H28.7.9～H28.7.10 | 21(19) | 留学生を対象とした県内の自然・文化体験旅行 |
| 22 | 春季留学生修了パーティ | | H28.8.2 | 92(44) | 8月9月修了留学生のお祝い |
| 23 | 東成瀬村English Camp | | H28.8.11 | 10(9) | 大学から留学生を派遣して、東成瀬村の小・中学生と交流 |
| 24 | 10月新入学留学生歓迎パーティー | | H28.9.28 | 38(27) | 新入学生と留学生寮近隣住民・教職員・日本人チューターによるパーティー交流会 |
| 25 | 餅つき大会 | | H28.12.12 | 70(40) | 留学生と近隣住民・教職員・日本人学生による餅つき体験 |
| 26 | ぼんでん祭り | | H29.1.17 | 32(28) | 秋田の伝統的な冬の祭りに留学生と共に参加 |
| 27 | 秋季留学生修了パーティー | | H29.2.2 | 79(43) | 2月3月修了・卒業生のお祝い |
| 28 | 角館火振りかまくら | | H29.2.13 | 未定 | 秋田の伝統的な冬の祭りに留学生と共に参加 |
| 29 | スキー合宿 | H29.2.22～H29.2.23 | 未定 | 留学生を対象としたスキー合宿 | |

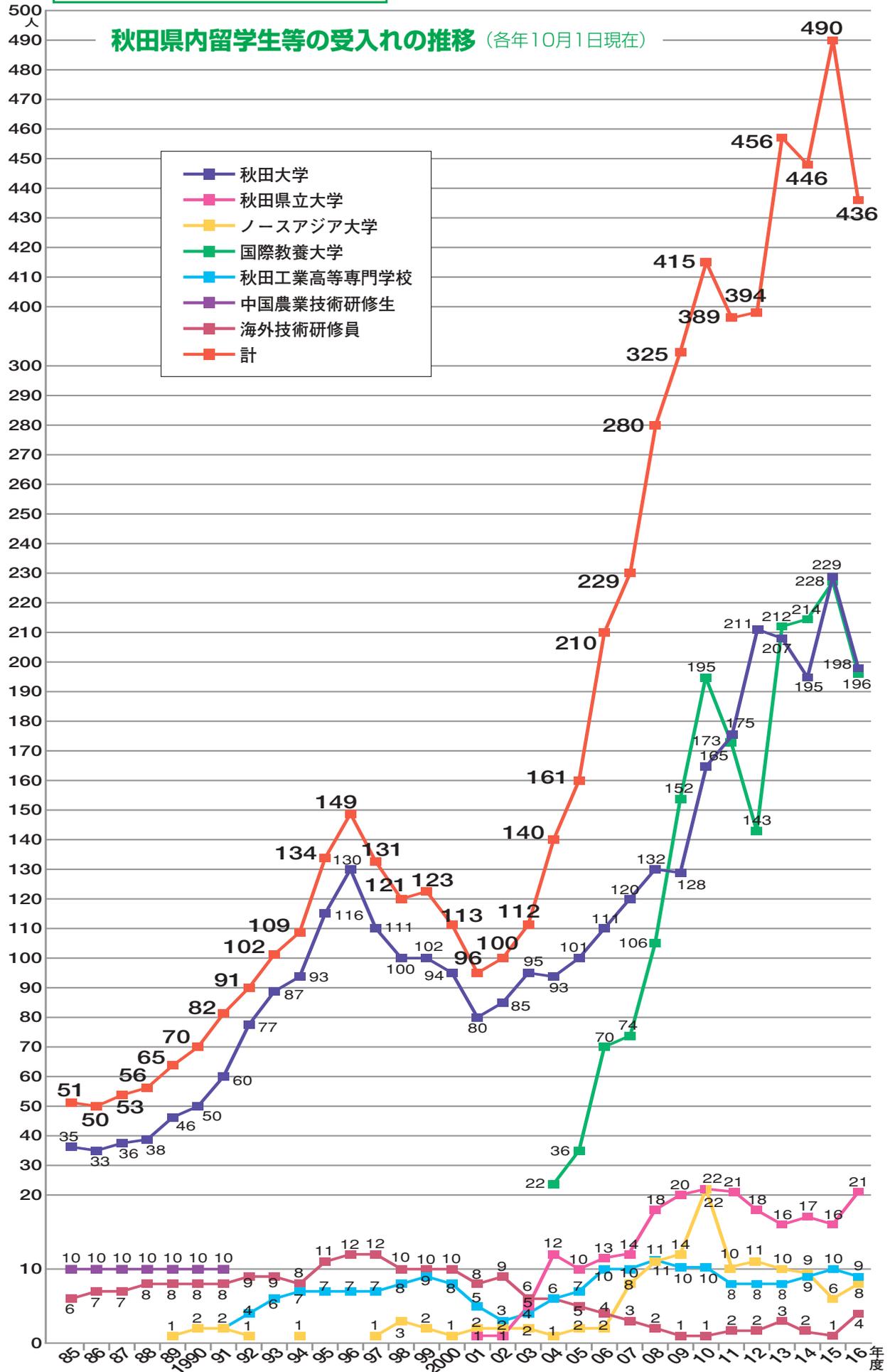
【注1】参加者の()欄については内数で留学生数を示しています。また、H29.2.1現在把握の人数で記入しています。

【注2】毎週や隔週行っている行事の「参加者」欄については、累計を記載しています。

【注3】事業名欄については、留学生参加の有無に関係なく、国際交流に関連するもの全てを記載しています。

留学生関係資料

秋田県内留学生等の受入れの推移 (各年10月1日現在)



住居形態別留学生数 (平成28年10月1日現在)

| 住居別 | 学校等別 | 秋田大学 | 秋田県立大 学 | ノースア ジア大学 | 国際教養 大 学 | 秋田工業 高等専門 校 | 秋 田 県 | 合 計 |
|-----------|------|---------|------------|--------------|----------------|-------------------|-------|----------|
| 留学生用宿舎 | | 50(24) | | | | | | 50(24) |
| 大学等の学生寮 | | 10(0) | | 7(4) | 187(104) | | | 204(108) |
| 秋田県職員宿舎 | | | | | | | | |
| 公営住宅 | | 2(2) | | | | | | 2(2) |
| 民間下宿・アパート | | 136(47) | 21(5) | | 1(1) | | 4(2) | 162(57) |
| 民間企業の社員寮 | | | | | | | | |
| ホームステイ | | | | | | | | |
| その他 | | | | 1(0) | 8(3) | 9(2) | | 18(5) |
| 合 計 | | 198(73) | 21(5) | 8(4) | 196(108) | 9(2) | 4(2) | 436(194) |

注：() 内は内数で女性を示す。

秋田県内留学生等の出身国・地域別在籍状況 (平成28年10月1日現在)

| | | 秋田大学 | 秋田県立 大 学 | ノースア ジア大学 | 国際教養 大 学 | 秋田工業 高等専門 学 校 | 秋 田 県 (海外技術 研修員) | 計 | 地域別 割 合 |
|-----------------------|-----------|------|----------------|--------------|----------------|------------------------|------------------------|------|------------|
| ア ジ ア | 中国 | 51 | 19 | 2 | 7 | | 1 | 80 | 60.8% |
| | 台湾 | 5 | | 5 | 20 | | | 30 | |
| | 韓国 | 12 | 2 | 1 | 11 | | | 26 | |
| | マレーシア | 35 | | | 2 | 5 | | 42 | |
| | ベトナム | 27 | | | 3 | | | 30 | |
| | モンゴル | 14 | | | 1 | 1 | | 16 | |
| | インドネシア | 14 | | | 1 | 3 | | 18 | |
| | フィリピン | 6 | | | | | | 6 | |
| | タイ | 2 | | | 5 | | | 7 | |
| | インド | 1 | | | 1 | | | 2 | |
| | シンガポール | | | | 3 | | | 3 | |
| | ブルネイ | | | | 4 | | | 4 | |
| | ミャンマー | | | | 1 | | | 1 | |
| 計 | 167 | 21 | 8 | 59 | 9 | 1 | 265 | | |
| ア フリ カ | ケニア | 2 | | | | | | 2 | 4.6% |
| | タンザニア | 1 | | | | | | 1 | |
| | モザンビーク | 2 | | | | | | 2 | |
| | マダガスカル | 1 | | | | | | 1 | |
| | ザンビア | 3 | | | | | | 3 | |
| | ボツワナ | 4 | | | | | | 4 | |
| | 南アフリカ | 1 | | | | | | 1 | |
| | ジンバブエ | 1 | | | | | | 1 | |
| | マラウイ | 3 | | | | | | 3 | |
| | モロッコ | | | | 1 | | | 1 | |
| エジプト | 1 | | | | | | 1 | | |
| 計 | 19 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 20 | | |
| オ セ ア ニ ア | オーストラリア | | | | 5 | | | 5 | 2.3% |
| | パプアニューギニア | 3 | | | | | | 3 | |
| | ニュージーランド | | | | 1 | | | 1 | |
| | フィジー | | | | 1 | | | 1 | |
| 計 | 3 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 10 | | |
| 中 東 | アフガニスタン | 1 | | | | | | 1 | 1.6% |
| | パキスタン | 1 | | | | | | 1 | |
| | イラン | 2 | | | | | | 2 | |
| | イスラエル | 1 | | | | | | 1 | |
| | アラブ首長国連邦 | 2 | | | | | | 2 | |
| 計 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | | |
| 北 米 | アメリカ | | | | 56 | | | 56 | 15.6% |
| | カナダ | | | | 10 | | | 10 | |
| | メキシコ | | | | 2 | | | 2 | |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 68 | 0 | 0 | 68 | | |
| 中 南 米 | ブラジル | | | | | | 1 | 1 | 1.1% |
| | アルゼンチン | | | | | | 2 | 2 | |
| | チリ | | | | 1 | | | 1 | |
| | ホンジュラス | 1 | | | | | | 1 | |
| 計 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 5 | | |
| ヨ ー ロ ッ パ | イギリス | | | | 6 | | | 6 | 14.0% |
| | キプロス | | | | 1 | | | 1 | |
| | ノルウェー | | | | 4 | | | 4 | |
| | デンマーク | | | | 3 | | | 3 | |
| | フィンランド | | | | 2 | | | 2 | |
| | オランダ | | | | 5 | | | 5 | |
| | ドイツ | | | | 7 | | | 7 | |
| | フランス | | | | 17 | | | 17 | |
| | スウェーデン | | | | 3 | | | 3 | |
| | チェコ | | | | 1 | | | 1 | |
| | スロヴァキア | | | | 2 | | | 2 | |
| | スイス | | | | 1 | | | 1 | |
| | ルーマニア | | | | 1 | | | 1 | |
| | セルビア | 1 | | | | | | 1 | |
| | ロシア | | | | 3 | | | 3 | |
| | リトアニア | | | | 2 | | | 2 | |
| ラトビア | | | | 2 | | | 2 | | |
| 計 | 1 | 0 | 0 | 60 | 0 | 0 | 61 | | |
| 合 計 | 198 | 21 | 8 | 196 | 9 | 4 | 436 | 100% | |

平成28年度秋田地域留学生等交流推進会議議事要旨

日時 平成28年12月1日（木）16：15～17：00

会場 秋田大学本部棟第一会議室

議事に先立ち、秋田地域留学生等交流推進会議議長の山本文雄秋田大学長から挨拶の後、各委員の自己紹介があった。

議題

(1) 協議事項

①平成27年度決算報告と平成29年度「地域留学生交流推進会議」事業計画（案）及び予算案について

事務局から協議資料1-1を基に決算報告があり、了承された。

協議資料1-2及び協議資料1-3を基に、平成29年度の事業計画（案）及び予算案について、今年度同様ノースアジア大学80,000円、秋田県立大学80,000円、国際教養大学80,000円、秋田工業高等専門学校80,000円、秋田大学80,000円をそれぞれ負担いただき、計400,000円で運営したい旨説明があり、了承された。

また、推進会議懇親会について、今年度と同様に招待留学生数を36名とし、留学生分の懇親会費も今年度と同様に本経費で支出する旨説明があり、了承された。

②その他 なし

(2) 報告事項

①平成28年度学校等別外国人留学生受入数及び大学・高専による国際交流事業について

議長より報告資料1及び2-1について説明があり、留学生数及び国際交流事業の推進状況について各高等教育機関から報告があった。

【ノースアジア大学】

中国から2名、台湾から5名、韓国から1名の8名（内訳は男女各4名）また別科に1名が在籍しており、計9名の留学生を受け入れている。大学祭に出店を出し、母国の料理・お菓子を販売した。今後はクリスマスのイベント、冬休み・春休みにスキー体験を予定している旨報告があった。

【秋田県立大学】

留学生全員が大学院に在籍しているため、いずれは学部での留学生受け入れを増やしたいと考えているが、留学生のための寮等がないこともあり、なかなか難しい状況である旨報告があった。

【国際教養大学】

留学生196名のうち108名が女性であり、女性が若干多いが、男女の比率に大きな偏りはない。アジアとヨーロッパからの留学生はほぼ同数であり、北米からの留学生が最も多い。36ヶ国・地域からの留学生が在籍している。6つの町・市と協定を結んでおり、昨年は237件の交流事業を行った。今年度も同様に交流事業を行っている旨報告があった。

【秋田工業高等専門学校】

長期の留学生はマレーシア、インドネシア、モンゴルとアジアから計9名が在籍しており、全員が学生寮で生活している。交流事業については、「第三の故郷を見つける農家民泊」の参加学生を2年目以降の学生に限定することとなったため、今年度は残念ながら参加していない。また、東北地区の高専から留学生が集まる交流会「学校の枠を越えた留学生研修」を鶴岡で行う予定があり、秋田高専から2名申し込みをしたが、今年度より交通費及び宿泊費が完全に自己負担になったため全体参加者数が集まらず中止に

なった。

短期の留学生はフランスから3名（3ヶ月）フィンランドから1名（3ヶ月）ベトナムから2名（2週間）在籍している。また、現在フランスに2名の学生を派遣している旨報告があった。

【秋田大学】

留学生198名のほとんどがアジアからの留学生であるが、最近の傾向としてはアフリカ・中東など資源国からの留学生が増えている。今年度は新モンゴル学園・パプアニューギニア工科大学と大学間協定を締結した。大学間協定校は30ヶ国58大学となり、部局間協定数は9ヶ国・地域16学部等となっている。留学生数は概ね200名前後で推移している旨報告があった。

②秋田地域における国際交流団体・外国人留学生等交流推進事業の活動実施状況について

秋田県企画振興部国際課より、報告資料2-2に基づいて外国人留学生等交流推進事業の活動実施状況について説明があった。

また、報告資料2-3に基づいて秋田留学生交流サポート事業として、国際交流活動に参加することを条件に留学生の居住費の補助を行っている旨の報告があった。

③平成28年度留学生地域交流事業「第三の故郷を見つける農家民泊2016」実施報告について

事務局から、報告資料3並びに実施報告書により、本推進会議主催で財団法人中島記念国際交流財団助成事業に採択された助成金を基に、今年度はノースアジア大学、秋田県立大学、国際教養大学、秋田大学から留学生・日本人学生・協力教職員が参加した農業体験ツアー・収穫感謝ツアーを仙北市西木町にて実施したこと、来年度も財団法人中島記念国際交流財団助成事業に申請を予定していることの報告があった。

④その他 なし

(3) その他

事務局より、今年度も「あきた留学生交流29号」を平成28年度2月下旬に発行予定であり、これから原稿執筆など関係の方々に依頼をする予定であることの説明があった。

(4) 閉会

その後、場所を生協に移して行った留学生との懇親会では、山本文雄秋田大学長及び小間篤秋田県立大学長のスピーチの後、参加留学生35名（36名を予定していたが、1名欠席）全員からの日本語と英語を交えた挨拶が行われた。ハラルに対応した稲庭うどん等、美味しい料理に舌鼓を打ちながら大学の垣根を越えて和気藹々と交流する姿が見られた。普段ふれあう機会の少ない他大学の学生との交流をはかることが出来る有意義な懇親会であることを再確認した。

秋田地域留学生等交流推進会議要項

(設置及び目的)

第1 秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進を図るため、秋田地域留学生等交流推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

(事業)

第2 推進会議は、第1に掲げる目的を達成するため、秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進に関する重要事項について協議する。

(委員)

第3 推進会議は、次に掲げる者をもって組織する。
一 秋田地域の関係大学等の長
二 秋田地域の国・地方公共団体の関係機関、経済団体、国際交流関係団体の長又は代表者 各1名
三 学識経験者 若干名

2 委員は、議長が委嘱する。

(役員及び役員の職務)

第4 推進会議に議長及び副議長を置く。
2 議長は、秋田大学長をもって充て、副議長は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。
3 議長は、推進会議を招集する。
4 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときは、議長の職務を代行する。

(顧問)

第5 推進会議に顧問を若干名置くことができる。
2 顧問は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。
3 顧問は、推進会議の運営及び事業に関し、必要に応じて助言する。

(委員以外の者の出席)

第6 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

(事務)

第7 推進会議の事務は、秋田大学国際課において行う。

(雑則)

第8 この要項に定めるもののほか、推進会議に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要項は、平成元年10月17日から実施する。

附則

この要項は、平成14年9月26日から実施する。

附則

この要項は、平成17年2月28日から実施する。

附則

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

附則

この要項は、平成21年12月18日から実施し、平成21年4月1日から適用する。

附則

この要項は、平成24年12月14日から実施し、平成24年4月1日から適用する。

附則

この要項は、平成25年12月4日から実施し、平成25年4月1日から適用する。

秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ

平成22年4月1日制定
平成25年12月4日一部改正

(趣旨)

1.秋田地域留学生等交流推進会議要項第8の規定に基づき、秋田地域留学生等交流推進会議（以下「推進会議」という。）の事業費に関して、次のとおり定める。

(事業費)

2.推進会議の運営に必要な経費は、次に定める大学が拠出する負担金をもって充てる。

| 大学名 | 負担金 |
|------------|---------|
| ノースアジア大学 | 80,000円 |
| 秋田県立大学 | 80,000円 |
| 国際教養大学 | 80,000円 |
| 秋田工業高等専門学校 | 80,000円 |
| 秋田大学 | 80,000円 |

(事業年度)

3.推進会議の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(負担金の納入)

4.負担金の納入は年1回とし、納入に係る事務は秋田大学国際課において行う。

秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿

平成28年12月1日現在

| 区分 | 所属 | 職名 | 氏名 |
|----------|----------------|-------|--------|
| 国・地方公共団体 | 仙台入国管理局秋田出張所 | 所長 | 九島 亮胤 |
| | 秋田県 | 知事 | 佐竹 敬久 |
| | 秋田県市長会 | 会長 | 穂積 志 |
| | 秋田県町村会 | 会長 | 佐々木 哲男 |
| | 秋田市 | 市長 | 穂積 志 |
| 経済団体 | (一社)秋田県経営者協会 | 会長 | 藤原 清悦 |
| | 秋田県商工会議所連合会 | 会長 | 三浦 廣巳 |
| | 秋田県中小企業団体中央会 | 会長 | 藤澤 正義 |
| | 秋田県商工会連合会 | 会長 | 村岡 淑郎 |
| | 秋田県農業協同組合中央会 | 会長 | 木村 一男 |
| 国際交流関係団体 | (公社)秋田青年会議所 | 理事長 | 鈴木 亮 |
| | 秋田ロータリークラブ | 会長 | 小玉 真一郎 |
| | 秋田国際交流団体連絡会 | 会長 | 佐々木 正光 |
| 学識経験者 | 独立行政法人日本学生支援機構 | 東北支部長 | 佐藤 光彦 |
| 大学・高専 | 秋田魁新報社 | 代表取締役 | 小笠原 直樹 |
| | ノースアジア大学 | 学長 | 小泉 健 |
| | 秋田栄養短期大学 | 学長 | 小泉 健 |
| | 聖霊女子短期大学 | 学長 | 平垣 ヨシ子 |
| | 聖園学園短期大学 | 学長 | 門戸 美智 |
| | 秋田県立大学 | 学長 | 小間 篤 |
| | 国際教養大学 | 学長 | 鈴木 典比古 |
| | 秋田工業高等専門学校 | 校長 | 米本 年邦 |
| | 秋田看護福祉大学 | 学長 | 小泉 健 |
| | 秋田大学 | 学長 | 山本 文雄 |

秋田地域留学生等交流推進会議運営による 資金貸与制度

この制度は、県内の大学・短大・高専に在籍する留学生の皆さんが、民間アパート等へ入居する際に必要となる予約金や、病気や災害などで多額のお金を一時的に必要とする場合に、経済的に困難と認められれば無利子で貸付を受けられる制度です。貸付金は、一人あたり10万円を限度としており、貸付後の翌月から10ヶ月以内の月払いで返済することになっています。また、困っている留学生から相談を受けた場合にも支援窓口関係者からご説明くださるようよろしくお願いします。

秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項

1.目的

この制度は、秋田地域留学生等交流推進会議構成員である大学・高専（以下「大学等」という。）に在学する私費外国人留学生が民間宿舎へ入居する際の予約金及び外国人留学生が緊急に必要とする資金について、申請に基づき貸与を行い、生活援助を図ることを目的とする。

2.内容

民間宿舎へ入居する際の予約金とは、権利金、礼金及び敷金を含み、緊急に必要とする資金とは、疾病、災害等により一時的に必要とする多額の経費とする。

3.貸与金額

貸与金額は、10,000円を単位とし、100,000円を限度とする。なお、利息は課さないものとする。

4.申請

貸与を必要とする者は、貸付金申請書（別紙様式1）を、秋田地域留学生等交流推進会議議長に提出するものとする。

5.選考

本人から提出された申請書の経済状況等を考慮し、秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員長が選考する。

6.貸与

貸与は申請者が所属する大学等の長を通じて行い、貸与を受けるにあたって、借用証書（別紙様式2）を秋田地域留学生等交流推進会議議長に提出するものとする。

7.返済期限

貸与を受けた者は、貸与を受けた月の翌月から起算して10か月以内に返済しなければならない。ただし、卒業又は修了等により外国人留学生の身分を失う場合は、身分喪失までに返済するものとする。

8.返済方法

貸付金の返済方法は、一括払い及び分割払い（10回を限度）とし、分割払いについては、いつでも繰り上げて返済することができるものとする。

9.返済の猶予

貸与を受けた者が、疾病、災害等やむを得ない事由により返済が困難になった場合は、返済猶予申請書（別紙様式3）を提出することにより返済を猶予することができる。ただし、その場合であっても、卒業又は修了等により外国人留学生の身分を失う場合は、身分喪失までに返済するものとする。

10.事務

貸与に関する事務は、秋田地域留学生等交流推進会議事務局である秋田大学国際課が行う。

11.その他

この要項に定めるもののほか、貸与に関する必要な事項は、秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員長が別に定めることができる。

附 則

1.この要項は、平成13年11月28日から実施する。

2.秋田地域留学生等交流推進会議宿舎予約金貸与制度実施要項及び秋田地域留学生等交流推進会議外国人留学生緊急資金貸付制度実施要項は廃止する。

附 則

この要項は、平成17年12月15日から実施し、平成17年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成22年12月17日から実施する。

附 則

この要項は、平成24年12月14日から実施し、平成24年4月1日から適用する。

(別紙様式1)

秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度 貸付金申請書

| | |
|---|-------------------------------------|
| 申請金額・事由 1. 予約金 2. 資金 円 | |
| 返済予定期間 | 平成 年 月 日～平成 年 月 日 |
| 返済方法 | 一括返済 円 × 1回 分割返済 円 × 回 円 × 1回 |
| 指導教員等の意見 (所属学部、研究科等) (職名・氏名) 印 | |
| 秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項により、貸付を受けたので申請いたします。 平成 年 月 日 秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿 申請者 (所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。 (氏 名) 印 | |

(別紙様式2)

借 用 証 書

| | |
|--|-------------------------------------|
| 借用金額 | 金 円 |
| 上記金額を秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度による貸付金として、借用しました。 については、秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項に従い、下記のとおり滞りなく返済いたします。 | |
| 記 | |
| 返済予定期間 | 平成 年 月 日～平成 年 月 日 |
| 返済方法 | 一括返済 円 × 1回 分割返済 円 × 回 円 × 1回 |
| 平成 年 月 日 秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿 借受人 (所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。 (氏 名) 印 | |

(別紙様式3)

秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度貸付金 返済猶予申請書

| | |
|--|-------------------|
| 猶予申請事由 | |
| 返済猶予金額 | 円 |
| 返済猶予期間 | 平成 年 月 日～平成 年 月 日 |
| 指導教員等の意見 (所属学部、研究科等) (職名・氏名) 印 | |
| 秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項により、貸付金の返済を猶予していただきたいので申請いたします。 平成 年 月 日 秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿 申請者 (所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。 (氏 名) 印 | |

■■■ 推進会議へのご意見や情報提供について ■■■

本推進会議は、秋田県内における留学生の受け入れや、交流活動を含めた国際交流の推進を図るために組織されています。その活動状況は、毎年発行する本誌「あきた留学生交流」(毎年2月下旬発行)を通して関係の皆さまにお伝えしております。お読みいただいてのご感想や本推進会議に対するご意見がございましたら、事務局までお寄せください。

また、留学生をはじめとする外国人の皆さんやそのご家族の方々は、地域の皆さまからのいろいろな情報の提供を望んでいます。国際交流に関するイベントの実施、その他日常生活に関するささやかな情報でも結構ですので、事務局までお寄せくださるよう協力願います。



あきた留学生交流 第29号

(2017.2発行)

編集・発行 秋田地域留学生等交流推進会議事務局
(秋田大学国際課)

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
TEL (018) 889-2856 FAX (018) 889-3012
E-mail kokusai@jimu.akita-u.ac.jp